

市町村名	北中城村						
平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-①	あやかりの杜滞在型施設活用事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-エ	
担当部署名	生涯学習課	事業実施(予定)年度	平成24～令和3年度		沖縄振興基本方針該当箇所	観光客の受入体制の整備	
事業内容	Ⅲ-1-(1)						
効果発現年度	長期滞在型宿泊施設やキャンプ場等がある「あやかりの杜」を活用し、野外活動や沖縄の自然や伝統文化の学習等を実施する。						
実施方法	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	□直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
	予算の状況	(a)当初予算額	5,000	5,000	5,000	6,041	4,000
		(b)予算現額	5,000	5,000	5,000	6,041	4,000
		(c)増減額(b-a)	0	0	0	0	0
		(d)繰越額	-	-	-	-	-
		A. 計(b+d)	5,000	5,000	5,000	6,041	4,000
	B. 執行済額		4,991	4,993	4,998	6,039	3,999
	うち交付金充当額		3,992	3,994	3,998	4,831	3,199
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		99.8%	99.9%	100.0%	100.0%	99.9%
予算の状況の説明		計画的な予算執行に努め、業務を遂行した。					
活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)		達成状況				
			27年度	28年度	29年度	30年度	
	体験交流事業	目標	(15事業)	(16事業)	(21事業)	(15事業)	
		実績	17事業	17事業	21事業	22事業	
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	・地域団体や企業等の協力、講座回数の工夫により、継続の21事業に加え、新たに1事業を立ち上げたことで、22事業を開催することができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)		基準値(年度)	28年度	29年度	30年度	目標値(年度)
	体験交流人数	目標	()	(520人)	(620人)	(390人)	()
		実績		519人	521人	400人	
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
	進捗状況説明	・昨年度から1事業増やし、参加者数を確保する取り組みを行ったことで、目標人数を達成することができた。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・地域や地元企業と連携した講座開設に取り組んだことで、新規講座が立ち上がり、目標達成の要因になった。 ・新聞等のメディアを通して広報を行い、反響が大きい講座もあったが、対応する職員が少なく円滑に進めることができない部分もあったため今後改善が必要。	・連携する地元企業等の開拓を行うことで、講座内容の充実化を図る。 ・様々な媒体を活用した情報発信を行うことで、講座に対する興味・関心の拡大を図るとともに、これまでの統計により参加人数の予測を行い、受入体制を整え充実した環境整備を図る。
今後の取り組み方針		
・村観光協会や地域おこし協力隊と連携し、地元飲食店等とのコラボ講座の推進に取り組む。 ・SNSや新聞、ラジオ等の広報を活用した情報発信に加え、あやかりの杜来館者に対しての情報発信に努めるとともに、受入体制の整備に取り組む。		

資金の流れ														
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3,999</td><td>3,999</td><td>3,199</td><td>800</td><td>0</td></tr> </tbody> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	3,999	3,999	3,199	800	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
3,999	3,999	3,199	800	0										
北中城村 3,999千円 委託料 3,999千円 特定非営利活動法人 あやのふあ 3,999千円 あやかりの杜滞在型施設推進業務														
資金の流 点、検 費 目・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・委託事業者は、施設の指定管理者であり、当該施設に熟知していることを勘案した上で選定しており、妥当であったと考える。 ・不用額が事業費の5%以内であることから、適正な規模であったと考える。 ・費用や使途については、精算時に検査を実施しており、目的に即し必要であったと判断する。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	北中城村						
平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-②	北中城まつり活性化事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-ア	
担当部署名	企画振興課	事業実施(予定)年度	平成24～令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	国際的な沖縄観光ブランドの確立		
					Ⅲ-1-(1)		
事業内容	観光誘客を図るため、伝統芸能プログラムを中心とした夏の「青年エイサー」、秋の「北中城しおさいまつり」、沖縄の温暖な気候を活かした冬の「ひまわりIN北中城」を開催する。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	■直接実施 □委託 ■補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
		(a) 当初予算額	18,817	18,817	21,241	24,141	11,657
		(b) 予算現額	19,460	18,000	21,241	24,141	12,719
		(c) 増減額(b-a)	643	▲ 817	0	0	1,062
		(d) 繰越額	—	—	—	—	—
		A. 計(b+d)	19,460	18,000	21,241	24,141	12,719
		B. 執行済額	19,460	15,141	21,095	22,484	12,066
		うち交付金充当額	15,568	12,113	16,876	17,986	9,652
		次年度繰越額	0	0	0	0	0
		執行率(%) (B/A)	100.0%	84.1%	99.3%	93.1%	94.9%
	予算の状況の説明	・1,062千円の補正増額については、ひまわりIN北中城の実施に係る補助金の増額によるものである。 ・不用額653千円については、臨時職員の途中退職に伴う執行残および北中城まつり活性化委員会補助金の精算に伴う返戻によるものである。					
活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)		達成状況				
			29年度	30年度	1年度	2年度	
	北中城村三大まつりの開催支援	目 標	(開催支援)	(開催支援)	()	()	
		実 績	開催支援	開催支援			
		目 標	()	()	()	()	
実 績							
進捗状況説明	・青年エイサーまつり・しおさいまつり(9/22～23)、ひまわりIN北中城(2/9～2/24)を予定通り開催し、計画通りの支援を行うことができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)		基準値(年度)	30年度	1年度	2年度	目標値(年度)
	青年エイサーまつり来場者数	目 標	()	(6,600人)			()
		実 績		13,740人			
	しおさいまつり来場者数	目 標	()	(22,700人)			()
		実 績		9,160人			
	ひまわりまつり来場者数	目 標	()	(48,300人)			()
		実 績		49,000人			
	進捗状況説明	・青年エイサーまつりが、しおさいまつりと合同開催となったため、青年エイサーまつりの来場客数は大幅に増加した。 ・北中城しおさいまつりについては、合同開催の影響による開催日数の減少により、来場者数は成果目標より減少した。 ・オーナー制度の導入や様々な種類のひまわりを植えるなど、新たな試みに取り組んだことで、目標を達成することができた。 ・各まつりの開催周知を図るため、新聞紙面による広報やラジオ番組・テレビCMでの告知を積極的に行ったことで、目標数値を概ね達成することができた。					

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	(青年エイサーまつり) ・エイサーを演舞する青年会からまつりの別途開催を希望する声があったため、開催方法について検討する必要がある。 (北中城しおさいまつり) ・会場の車両乗入れ規制の問題などから青年エイサーまつりと合同で開催したが、来場客数が分散したことで成果指標に影響を及ぼしたことから、開催方法について検討する必要がある。 (ひまわりIN北中城) ・オーナー制度により多くの人がひまわりの育成に携わったことや、珍しい品種のひまわりを植えたことで、SNS等で話題が拡散されたことが、成果目標の達成の要因になったと考える。	(青年エイサーまつり) ・青年エイサーまつりを単独で開催し、誘客効果のあるまつりの開催を目指す。 (北中城しおさいまつり) ・まつりの単独開催及びプログラムの変更について検討し、来場客の増加を図る。 (ひまわりIN北中城) ・村内各種団体と連携し、ひまわりの育成からまつりの開催まで多くの人が関わる体制をつくることで、まつり内容の充実化を図る。
今後の取り組み方針		
・青年エイサーまつりについて、単独開催などの開催方法を検討し、誘客効果のあるまつりの開催に取り組む。 ・北中城しおさいまつりについて、文化芸能プログラムのほか、来場客の増加が期待できるプログラムの見直しを検討する。 ・ひまわりプロジェクトチームやひまわり畑オーナー制度を利用し、希望者に直接ひまわりの育成に携わってもらうことで、農家など多くの人々を巻き込んだ「ひまわりまつり」に取り組む。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>12,066</td><td>12,066</td><td>9,652</td><td>2,414</td><td>0</td></tr> </tbody> </table> 北中城村 12,066千円 賃金 951千円 補助金 11,115千円 臨時職員 1名 951千円 北中城村まつり活性化委員会 11,115千円 北中城三大まつりの開催					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	12,066	12,066	9,652	2,414	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
12,066	12,066	9,652	2,414	0										
資金使途の流れ、検証・評価	評価	点検項目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・補助先のまつり活性化委員会は、村内各種団体で構成され、まつりを主催することから、妥当であったと判断する。 ・執行率が90%を超えており、適正な規模であったと判断する。 ・まつり総事業費の10%を同委員会で負担しており、補助要綱に則り妥当であったと判断する。 ・費目・使途については、精算時に検査を実施しており、目的に即し、必要であったと判断する。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	北中城村						
平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-③	観光誘客プロモーション事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-エ	
担当部課名	企画振興課		事業実施(予定)年度	平成26～令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	観光客の受入体制の整備	
						Ⅲ-1-(1)	
事業内容	村内への観光誘客を図るため、多言語観光案内業務や観光多言語案内冊子の制作・配布、観光イベントでのプロモーションを実施する。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	■直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
	予算の状況	(a)当初予算額	20,453	12,132	22,200	53,100	44,531
		(b)予算現額	20,453	12,054	24,354	52,532	44,531
		(c)増減額(b-a)	0	▲78	2,154	▲568	0
		(d)繰越額	—	—	—	—	—
		A.計(b+d)	20,453	12,054	24,354	52,532	44,531
	B.執行済額		17,190	12,041	23,813	48,698	43,951
	うち交付金充当額		13,752	9,632	19,050	38,958	35,160
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		84.0%	99.9%	97.8%	92.7%	98.7%
予算の状況の説明		・計画的な予算執行に努め、業務を遂行した。					
活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)		達成状況				
			27年度	28年度	29年度	30年度	
	多言語観光案内業務の実施	目標	(業務開始)	(3人)	(実施)	(実施)	
		実績	業務開始	3人	実施	実施	
	観光多言語案内冊子等製作配布	目標	()	(30,000部)	(60,000部)	(60,000部)	
		実績		30,000部	97,100部	60,000部	
	観光イベントでのプロモーション	目標	(1回)	(1回)	(国内:2回 国外:2回)	(国内:2回 国外:2回)	
実績		2回	2回	国内:2回 国外:2回	国内:2回 国外:2回		
達成状況説明	・多言語による観光案内業務を通年を通して実施できた。 ・多言語観光案内冊子を作成し、観光案内所やプロモーションイベント等で積極的に配布した。 ・東京(2回)、台湾、香港において、北中城村のブースを設置し、プロモーション活動を実施した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)		基準値(年度)	30年度	1年度	2年度	目標値(年度)
	村内主要観光施設(中城城跡・中村家住宅)来場者数:158,000人	目標	()	(158,000人)	()	()	()
		実績		142,823人			
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
進捗状況説明	・平成30年度から中城城跡広場内(イベントスペース)への車両乗り入れなどの利用制限が行われたが、目標値の90%を超えており概ね達成することができた。						

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	・中城城跡の利用制限により来場者数は減少したものの、観光案内所を訪れる外国人観光客へ、外国語対応が可能なスタッフや多言語観光案内冊子を活用し村内観光施設の紹介をすることで、施設を訪れる外国人観光客は増加しており、成果目標を概ね達成できた要因と考えている。 ・国内外イベントでのプロモーションについて、より効果的なプロモーションを目指すため、ターゲットを絞り集中的にプロモーションを実施する必要がある。	・観光案内所における外国人観光客への対応について、外国語対応が可能なスタッフを常時配置するとともに、多言語観光案内冊子等により本村の魅力を紹介することで、村内主要観光施設への誘客を推進する。 ・国内外イベントでのプロモーション回数・実施方法を検討し、より効果的なプロモーションを実施する。
今後の取り組み方針		
・外国人観光客に対し、多言語観光案内が可能なスタッフの配置及び観光案内冊子により本村の魅力を紹介することで、主要観光施設等への誘客を図る。 ・引き続き、県や関係機関と連携し、国内外でのプロモーション活動を展開することで、北中城村の知名度アップに取り組む。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)				
北中城村 43,951千円 賃金 1,538千円 臨時職員 1名 1,538千円 需用費 77千円 JAおきなわSS 77千円 車両燃料費 賃借料 410千円 トヨタレンタリース 410千円 車両リース 委託料 41,926千円 一般社団法人 北中城村観光協会 41,926千円 ・観光案内所運営 ・観光案内冊子制作 ・イベントプロモーション				
		総事業費	交付対象事業費	交付金充当額
		43,951	43,951	35,160
				市町村負担金
				8,791
				交付対象外経費
				0
資金の用途の流点、使費目・評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明	
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・委託事業者は、村内事業所等との連携が不可欠であり公共性が求められることから、村観光協会が妥当であったと判断する。 ・不用額が事業費の5%以内であることから、適正な規模であったと考える。 ・費目・使途については、精算時に検査を実施しており、目的に即し、必要であったと判断する。	
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。		
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。		
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		

市町村名	北中城村						
平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-④	公営墓地整備事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(6)-ア		
					沖縄らしい風景づくり		
担当部課名	住民生活課	事業実施(予定)年度	平成24～令和2年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-1-(1)		
事業内容	沖縄独特の墓地散在化の抑制と整理、景観的な住環境の改善を図るため、公営墓地用地取得及び進入路実施設計を行う。						
効果発現年度	☐ 当年度 ☒ 後年度(3年度)						
実施方法	☒ 直接実施 ☒ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他 ()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	78,716	113,463	28,637	50,922	71,907
		(b) 予算現額	78,716	82,096	28,594	17,161	27,119
		(c) 増減額 (b-a)	0	▲ 31,367	▲ 43	▲ 33,761	▲ 44,788
		(d) 繰越額	—	—	—	—	—
		A. 計 (b+d)	78,716	82,096	28,594	17,161	27,119
	B. 執行済額		43,560	80,217	15,288	5,141	25,089
	うち交付金充当額		34,848	64,173	12,230	4,113	20,071
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		55.3%	97.7%	53.5%	30.0%	92.5%
予算の状況の説明		・当初、公営墓地進入路整備工事を予定していたが、施工箇所の用地交渉が不調に終わったため、工事を実施することができなかったことにより44,788千円を補正減額した。 ・不用額2,030千円については、用地取得の不調1,684千円及び委託費346千円の執行残によるものである。					
活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況				
			27年度	28年度	29年度	30年度	
	用地取得	目 標	(7,722.27㎡)	(1,972㎡)	(1,471.45㎡)	(1,332.49㎡)	
		実 績	7,830.15㎡	686.79㎡	138.96㎡	1,145.9㎡	
	進入路実施設計	目 標	()	()	()	(実施設計の検討)	
		実 績				実施設計の検討	
達成状況説明	・当初、4筆(1,332.49㎡)の用地取得を計画していたが、地権者との交渉を重ねた結果、2筆(1145.9㎡)の取得となった。 ・用地の取得状況を踏まえ、進入路実施設計の変更について検討することができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)		基準値(年度)	28年度	29年度	30年度	目標値(R3年度)
	用地取得の完了	目 標	()	(100%)	(100%)	(100%)	()
		実 績		89.74%	90.71%	98.70%	
	公営墓地進入路実施設計の完了	目 標	()	()	()	実施設計の完了	()
		実 績				実施設計の完了	
	【R3成果目標】 公営墓地利用世帯	目 標	()	()	()	()	(35世帯)
		実 績					
進捗状況説明	・186.59㎡については、地権者の合意が得られず取得には至らなかったものの、必要面積の98.7%の取得が完了しており、成果目標を概ね達成できた。 ・用地の取得状況を踏まえた設計変更を行ったことで、進入路実施設計を完了することができた。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・一部地権者の合意が得られなかったものの、必要面積を概ね取得しており、実施設計の変更を行ったことで整備に向けた準備が整った。	・公営墓地にアクセスするための進入路整備に着手し、公営墓地整備の推進を図る。
今後の取り組み方針		
・公営墓地の整備に向け、進入路整備工事に取り組む。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> <tr> <td>25,089</td><td>25,089</td><td>20,071</td><td>5,018</td><td>0</td></tr> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	25,089	25,089	20,071	5,018	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
25,089	25,089	20,071	5,018	0										
北中城村 25,089千円 委託料 2,009千円 委託料 12,744千円 公有財産購入費 10,336千円 一般財団法人 公共用地補償機構 2,009千円 株式会社 大洋土木コンサルタント 12,744千円 地権者 2名 10,336千円 公営墓地用地取得マネジメント業務 公営墓地進入路実施設計業務 公営墓地用地の購入														
資金の 使途の 流れ、 点検、 評価 ・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・委託事業者は、指名競争入札により選定しており、妥当であったと考える。 ・予算規模については、事前に見積りを取るなど、内容を確認しており妥当であったと考える。 ・費目・使途については、精算段階で検査を実施しており、事業目的に即し適正であったと判断する。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	北中城村						
平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-⑤	ライカム交差点交流オアシス整備事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-エ	
担当部署名	企画振興課	事業実施(予定)年度	平成28～令和1年度		沖縄振興基本方針該当箇所	観光客の受入体制の整備	
						Ⅲ-1-(1)	
事業内容	北中城村の魅力を発信するような景観形成を図るため、米軍により返還されたアワセゴルフ場地区の玄関口となるライカム交差点の道路残地を活用した交流スペースの整備を行う。						
効果発現年度	☐ 当年度 ☒ 後年度(2年度)						
実施方法	☒ 直接実施 ☒ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他 ()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	(a) 当初予算額	28年度	29年度	30年度	1年度	2年度
		(b) 予算現額	3,134	6,550	6,378		
		(c) 増減額(b-a)	3,024	6,232	23,145		
		(d) 繰越額	▲ 110	▲ 318	16,767		
		A. 計(b+d)	—	—	—		
	B. 執行済額		3,024	6,232	23,145		
		うち交付金充当額	3,024	6,232	21,949		
		次年度繰越額	2,419	4,985	17,559		
		執行率(%) (B/A)	0	0	0		
	予算の状況の説明	・16,767千円の予算増額の主な理由は、3期工事により設置予定だったオブジェを前倒しで設置したことによる増額である。 ・不用額1,196千円については、工事及び設計監理の入札残と精算時の減額によるものである。					
活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)		達成状況				
			30年度	1年度	2年度	3年度	
	オブジェ(13基)の設置実施	目 標	(実施)	()	()	()	
		実 績	実施				
	植栽、人工芝の設置	目 標	(設置)	()	()	()	
		実 績	設置				
達成状況説明	・過年度に策定した実施設計に基づき、オブジェを13基設置することができた。また、植栽、人工芝についても、今年度の植付予定範囲に設置を完了させることができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)		基準値(年度)	30年度	1年度	2年度	目標値(R2年度)
	オブジェ(13基)の設置完了	目 標	()	(13基)	()	()	()
		実 績		13基			
	【R2成果目標】 ・魅力的な景観形成が図られたかを含め、アンケート調査により、当該事業のあり方について検証する	目 標	()	()	()	()	(80%以上)
		実 績					
	進捗状況説明	・過年度に策定した実施計画を基に、計画どおり13基のオブジェをすべて設置したことで、成果目標を達成することができた。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・オブジェの設置について、沖縄県立芸術大学と連携して行うことで、細部まで検討することができた。 ・設置箇所が県有地であるため、沖縄県との事前協議を実施していたが、詳細調整に時間を要したため、諸手続き(管理協定の締結、道路占用許可)が想定より遅れてしまった。	・沖縄県との事前調整を早期に行うことで、工期内での円滑な整備に取り組む必要がある。
今後の取り組み方針		
・交流スペースの完了に向け、植栽や案内板等の整備に取り組む。		

資金の流れ														
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>21,949</td><td>21,949</td><td>17,559</td><td>4,390</td><td>0</td></tr> </tbody> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	21,949	21,949	17,559	4,390	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
21,949	21,949	17,559	4,390	0										
北中城村 21,949千円 委託料 4,342千円 ランドブレイン(株)沖縄事務所 4,342千円 工事請負費 17,607千円 (有)仁海建設 17,607千円 ライカム交差点交流オアシス整備工事 設計監理等委託業務 ライカム交差点交流オアシス整備工事														
資金の流 れ、点検 項目・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・委託業者は、指名競争入札により選定。工事業者は、随意契約であるが、入札が2度不調になったためであり、妥当であったと考える。 ・不用額が事業費の5%以内であることから、適正な規模であったと考える。 ・費目や用途については、完了時に検査を実施しており、目的に即し必要であったと判断する。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	北中城村						
平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-⑥	地域発信型映画制作事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-イ	
担当部署名	企画振興課	事業実施(予定)年度	平成29～30年度	沖縄振興基本方針該当箇所	市場特性に対応した誘客活動の展開		
事業内容	Ⅲ-1-(1)						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	□直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			29年度	30年度	1年度	2年度	3年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	10,648	5,000			
		(b) 予算現額	11,448	5,000			
		(c) 増減額(b-a)	800	0			
		(d) 繰越額	—	—			
		A. 計(b+d)	11,448	5,000			
	B. 執行済額		11,223	5,000			
	うち交付金充当額		8,978	4,000			
	次年度繰越額		0	0			
	執行率(%) (B/A)		98.0%	100.0%			
予算の状況の説明		・計画的な予算執行に努め、業務を遂行した。					
活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)		達成状況				
				30年度	1年度	2年度	3年度
	映画祭へのエントリー出品(5カ国)	目 標	(5カ国)	()	()	()	
		実 績	1カ国				
	県内上映イベント開催(1回)	目 標	(1回)	()	()	()	
		実 績	1回				
	村内カフェ上映会(10箇所)	目 標	(10箇所)	()	()	()	
		実 績	10箇所				
	達成状況説明	・映画祭へのエントリー出品について、ソウル、セルビア映画祭、台湾発着クルージング客船での上映等を試みたものの、主催者側のプログラム上の問題等により調整が不調に終わったため、「ショートショートフィルムフェスティバル映画祭&アジア」のみの出品となったが、この映画祭において第8回観光映像大賞中間賞を受賞し、50作品の出品の中から10作品選出され「きたなかスケッチ」が入賞した。 ・県内上映イベントでは、上映会告知のため県内民放による特別番組を放送するなどし、村内の大型商業施設で開催したことで71人の参加があった。 ・村内カフェ等での上映会では、村内10箇所では497人の方が観賞し、多くの方に本村の伝統芸能や美しいロケーションをPRすることができた。					
	成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)		基準値(年度)	30年度	1年度	2年度
村内主要観光施設(中城城跡・中村家住宅)来場者数:158,000人		目 標	()	(158,000人)	()	()	()
		実 績		142,823人			
		目 標	()	()	()	()	()
		実 績					
進捗状況説明		・平成30年度から中城城跡広場内(イベントスペース)への車両乗り入れなどの利用制限が行われたが、142,823人の来場者があり成果目標を概ね達成した。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・本事業で制作した映画「きたなかスケッチ」を、集客力のある商業施設や村内の人気スポットでの上映会の開催、Youtubeでの公開により多くの方に村のPRが図られた。これにより、一部の主要観光施設で利用制限等があったにも関わらず成果目標を概ね達成できた要因と考える。 ・より多くの観光客が訪れる場所で視聴できる環境を整える必要がある。	・観光客が多く訪れる施設で映画「きたなかスケッチ」が視聴できる環境を整えることで、当該映画のロケ地でもあり主要観光施設である中城城跡や中村家住宅への来場者増に努める。
今後の取り組み方針		
・村内ホテルを中心に、各客室で視聴できる環境整備に取り組む。 ・台湾発着クルーズ「マジェスティック・プリンセス号」ならびに「サン・プリンセス号」等での上映に向けた取り組みを行う。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>5,000</td><td>5,000</td><td>4,000</td><td>1,000</td><td>0</td></tr> </tbody> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	5,000	5,000	4,000	1,000	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
5,000	5,000	4,000	1,000	0										
北中城村 5,000千円 委託料 5,000千円 株式会社 ファンファーレ・ジャパン 5,000千円 映画きたなかスケッチプロモーション 委託業務														
資金の流 点、費 目・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・委託業務については村契約規則に基づき随意契約を行っており、妥当であったと考える。 ・予算規模は事業内容に即した規模となっている。 ・費目および用途については、精算時に検査を行っており、事業目的に即し必要なものであったと判断する。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	北中城村						
平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-⑦	観光情報インフラ整備推進事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-エ	
担当部署名	企画振興課	事業実施(予定)年度	平成28～令和3年度		沖縄振興基本方針該当箇所	観光客の受入体制の整備	
						Ⅲ-1-(1)	
事業内容	村内を訪れる観光客等の利便性向上を図るため、観光スポット等への公衆無線LANの提供及び観光ポータルサイトの多言語機能を追加する。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	□直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	(a) 当初予算額	28年度	29年度	30年度	1年度	2年度
		(b) 予算現額	18,023	24,728	9,944		
		(c) 増減額(b-a)	0	▲ 989	0		
		(d) 繰越額	—	—	—		
		A. 計(b+d)	18,023	23,739	9,944		
	B. 執行済額		17,659	23,684	7,927		
		うち交付金充当額	14,127	18,947	6,341		
		次年度繰越額	0	0	0		
	執行率(%) (B/A)		98.0%	99.8%	79.7%		
	予算の状況の説明		不用額2,017千円については、委託料の精算に伴うものである。				
活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)		達成状況				
	観光ポータルサイト機能追加 (多言語化機能追加:韓国語)		30年度	1年度	2年度	3年度	
		目 標	(機能追加)	()	()	()	
		実 績	機能追加				
		目 標	()	()	()	()	
	実 績						
達成状況説明	・観光ポータルサイトにおいて、多言語化機能として韓国語を追加したことで、活動目標を達成した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)		基準値(年度)	30年度	1年度	2年度	目標値(年度)
	Wi-Fi認証ベース利用数	目 標	()	(23,400件)	()	()	()
		実 績		78,455件			
	利便性が確保されたかを含め、ポータルサイトを韓国語利用した外国人に対するアンケートで本事業の在り方を検証する。	目 標	()	(80%)	()	()	()
		実 績		0%			
	進捗状況説明	・Wi-Fi認証ベース利用数は、目標値を大きく上回り、成果目標を達成できた。 ・ポータルサイトにおける多言語機能の追加作業に時間を要したため、アンケート実施に至らなかった。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・村内の主要な観光施設等へ設置した公衆無線LANが順調に稼働していることで、村を訪れた多くの観光客等に利用され、目標達成に至ったと考えられる。 ・ポータルサイトの多言語化にあたり、業者選定等に時間を費やすなど、機能追加に期間を要したため、アンケートを実施することができなかったことから、改めて村内観光動向を把握する必要がある。	・引き続き公衆無線LAN等のアクセスポイントを運営することで、村内を訪れる観光客等の利便性向上を図り、観光誘客に努める。 ・ポータルサイトの利便性向上について検証することで、村内観光動向の把握と観光サービスの向上を図る。
今後の取り組み方針		
・Wi-Fiアクセスポイントから得られるデータを活用し、国内観光分析やインバウンド観光分析に取り組む。 ・ポータルサイトの韓国語利用者に対するアンケート等での調査を行うことにより、当該サイトの利便性向上に取り組む。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象 事業費</th><th>交付金 充当額</th><th>市町村 負担金</th><th>交付対象 外経費</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>7,927</td><td>7,927</td><td>6,341</td><td>1,586</td><td>0</td></tr> </tbody> </table>					総事業費	交付対象 事業費	交付金 充当額	市町村 負担金	交付対象 外経費	7,927	7,927	6,341	1,586	0
総事業費	交付対象 事業費	交付金 充当額	市町村 負担金	交付対象 外経費										
7,927	7,927	6,341	1,586	0										
北中城村 7,927千円 委託料 7,927千円 一般社団法人 北中城村観光協会 7,927千円 観光情報インフラ整備推進業務														
資金 使途 の 流 れ 、 検 査 評 価 ・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
○	○	支出先の選定方法は妥当か。	・委託事業者は、村内観光施設や店舗等との連携が不可欠であり公共性が求められることから、妥当であると判断する。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	・予算規模は、業者見積りを踏まえ設定しており、適正な規模であると判断する。											
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	・Wi-Fi設置店舗等については、回線費を店舗等が負担しており、負担関係は妥当であると判断する。											
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	・費目・使途については、精算段階で検査を実施しており、目的に即し必要なものであると判断する。											

市町村名	北中城村						
平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-⑧	観光周遊バス実証事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-エ	
担当部署名	企画振興課	事業実施(予定)年度	平成30～令和3年度		沖縄振興基本方針該当箇所	観光客の受入体制の整備	
						Ⅲ-1-(1)	
事業内容	大型商業施設と世界遺産中城城跡を周遊バスで結ぶことで村内への観光誘客を図るため、周遊バス実証実験に向けた実施計画を策定する。						
効果発現年度	☐ 当年度 ☒ 後年度(2年度)						
実施方法	☐ 直接実施 ☒ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他 ()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	(a) 当初予算額	5,505				
		(b) 予算現額	5,301				
		(c) 増減額(b-a)	▲ 204				
		(d) 繰越額	—				
		A. 計(b+d)	5,301				
	B. 執行済額		5,253				
		うち交付金充当額	4,202				
		次年度繰越額	0				
	執行率(%) (B/A)		99.1%				
	予算の状況の説明		・204千円の予算減額については、委託費の入札残によるものである。				
活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)		達成状況				
			30年度	1年度	2年度	3年度	
	地域活性化公共交通協議会の開催	目 標	(開催)	()	()	()	
		実 績	開催				
	実証事業に向けた検討	目 標	(完了)	()	()	()	
		実 績	完了				
達成状況説明	・有識者や観光関連団体及び施設の代表者、利用者代表などで構成する検討会議を2回開催し、意見交換や課題の共有が行われたことで、活動目標を達成することができた。 ・上記会議において、運行ルートやダイヤ、バス停の位置、車両規格など、実証実験を実施するにあたり必要な検討が行われたことで、目標を達成することができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)		基準値(年度)	30年度	1年度	2年度	目標値(R2年度)
	実証事業準備の完了	目 標	()	(完了)	()	()	()
		実 績		完了			
	【R2成果目標】年間バス利用者数	目 標	()	()	()	()	(15,000人)
		実 績					
	進捗状況説明	・2回にわたって開催した検討会議において、観光関係団体や利用者との意見交換や情報共有がなされ、運行する車両の規模や運行ルート・ダイヤなどの実証実験に必要な事項が実施計画として策定されたことで、成果目標を達成することができた。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・実証事業の準備にあたっては、観光関係団体や有識者、利用者代表として地域住民で構成する検討会議を立ち上げたことで、実施するうえでの意見交換や情報共有が図られた。 ・上記の検討会議を通して、運行ルートや使用する車両の規格、効果検証方法について議論されたことで、実施計画として策定することができた。	・検討会議を継続して行うことで、実証実験中の課題や効果についての意見交換や情報共有を図る必要がある。 ・実施計画を着実に遂行し、効果検証を行う必要がある。
今後の取り組み方針		
・観光周遊バス実証実験検討会議を開催し、実証実験による効果や課題等についての意見交換や情報共有を行う。 ・策定した実施計画に基づく実証実験を行うとともに、利用者や関係団体に対するアンケートやヒアリング調査を実施することで、事業の効果検証に取り組む。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>5,253</td><td>5,253</td><td>4,202</td><td>1,051</td><td>0</td></tr> </tbody> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	5,253	5,253	4,202	1,051	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
5,253	5,253	4,202	1,051	0										
北中城村 5,253千円 報酬 54千円 旅費 15千円 委託料 5,184千円 委員報酬(8名) 54千円 委員費用弁償(8名) 15千円 ㈱中央建設コンサルタント 5,184千円 (北中城村観光周遊バス実証実験検討会議) (北中城村観光周遊バス実証実験検討会議) (観光周遊バス導入支援業務)														
資金の流 点、検 査、費 目・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・委託業者は、指名競争入札で選定しており、妥当であったと考える。 ・不用額は、事業費の5%以内であり、適正であったと考える。 ・費目・使途については、業務完了時に検査を実施しており、目的に即し必要なものであったと判断した。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	北中城村						
平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-⑨	アワセゴルフ場周辺まちづくり整備事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-エ	
担当部課名	建設課	事業実施(予定)年度	平成27～令和1年度		沖縄振興基本方針該当箇所	観光客の受入体制の整備	
事業内容	アワセゴルフ場跡地を中心に、返還予定のロウワープラザ地区やその周辺一帯が村の観光交流拠点としてまちづくりが行えるよう基本構想の検討を行う。						
効果発現年度	☐ 当年度 ☒ 後年度(2年度以降)						
実施方法	☐ 直接実施 ☒ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他 ()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			27年度	28年度	29年度	30年度	1年度
	予算の状況	(a)当初予算額	10,000	10,000	10,000	5,060	
		(b)予算現額	10,000	10,000	8,468	5,055	
		(c)増減額(b-a)	0	0	▲1,532	▲5	
		(d)繰越額	-	-	-	-	
		A.計(b+d)	10,000	10,000	8,468	5,055	
	B.執行済額		9,828	9,931	7,943	4,764	
	うち交付金充当額		7,862	7,944	6,354	3,811	
	次年度繰越額		0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)		98.3%	99.3%	93.8%	94.2%	
予算の状況の説明		・291千円の不用額については、入札執行残及び設計変更による減額によるものである。					
活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)		達成状況				
			30年度	1年度	2年度	3年度	
	基本構想の検討	目標	(基本構想の検討)	()	()	()	
		実績	基本構想の検討				
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	・住民を対象とした住環境等に関するアンケート調査を実施することにより、住民の意向を把握することで、アワセゴルフ場跡地に近接する周辺地区の基本構想を検討することができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)		基準値(年度)	28年度	29年度	30年度	目標値(R1年度)
	基本構想の策定	目標	()	(将来構想図の整理)	(整備手法の検討)	(基本構想の策定)	()
		実績		将来構想図の整理完了	整備手法の作成完了	基本構想の策定	
	【R1成果目標】策定する基本計画において成果を設定する	目標	()	()	()	()	(成果の設定)
		実績					
	進捗状況説明	・アワセゴルフ場跡地に近接する周辺地区において、今後一体となるまちづくりを目指すために必要な課題について整理・検討することで、基本構想として策定することができた。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・アワセゴルフ場跡地周辺と一体となった観光に資するまちづくりを推進するにあたり、周辺地区の住民が抱えている問題や要望する施設等を把握することができた。 ・アワセゴルフ場跡地周辺においては、慢性的な交通渋滞が大きな問題となっており、課題解決に向けた検討が必要である。	・観光に資するまちづくりの実現に向けて、関係機関や周辺自治会を含めたまちづくりの検討を行う必要がある。 ・アワセゴルフ場跡地周辺を中部圏域の観光拠点として広域的なまちづくりを推進するため、国や沖縄県と連携した交通渋滞緩和策を検討する必要がある。
今後の取り組み方針		
・アワセゴルフ場跡地周辺における国道330号線沿道の用途地域変更(案)等の作成に取り組む。 ・周辺地区のより良い住環境を築くため、地域住民との懇談会の開催等を検討し、基本計画の策定に取り組む。		

資金の流れ														
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4,764</td><td>4,764</td><td>3,811</td><td>953</td><td>0</td></tr> </tbody> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	4,764	4,764	3,811	953	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
4,764	4,764	3,811	953	0										
北中城村 4,764千円 委託料 4,764千円 株式会社 国建 4,764千円 アワセゴルフ場周辺まちづくり 基本構想策定業務														
資金の流 点、検 査、費 目・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・委託事業は、実績を勘案したうえで選定しており、妥当であったと考える。 ・執行率が90%を超えており、適切な規模であったと判断する。 ・費用や使途については、清算時に検査を実施しており、目的に即し必要であったと判断する。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	北中城村						
平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-10	リュウキュウマツ保全事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(6)-イ	
担当部課名	農林水産課	事業実施(予定)年度	平成28～令和3年度		沖縄振興基本方針該当箇所	花と緑あふれる県土の形成	
事業内容	北中城村の景観・美観を創出・継承するため、県木であるリュウキュウマツの計画的な薬液樹幹注入及び伐倒処分を実施する。						
効果発現年度	☐ 当年度 ☒ 後年度(1年度)						
実施方法	☐ 直接実施 ☒ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他 ()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			28年度	29年度	30年度	1年度	2年度
	予算の状況	(a)当初予算額	5,867	5,940	5,700		
		(b)予算現額	5,867	5,940	5,301		
		(c)増減額(b-a)	0	0	▲ 399		
		(d)繰越額	—	—	—		
		A. 計(b+d)	5,867	5,940	5,301		
	B. 執行済額		5,829	5,940	5,301		
	うち交付金充当額		4,663	4,752	4,240		
	次年度繰越額		0	0	0		
	執行率(%) (B/A)		99.4%	100.0%	100.0%		
予算の状況の説明		・委託料の確定に伴い、399千円を減額補正した。					
活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)		達成状況				
	樹幹注入	目 標	(400本)	(実施)	(1,000本)	()	
		実 績	1,564本	実施	66本		
		目 標	()	()	()	()	
		実 績					
	達成状況説明	・H28年度に作成した分布マップに基づき、薬剤樹幹注入を予定していたが、松くい虫被害が大きく被害木が増加したことから、樹幹注入本数が大幅減となった。					
成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)		基準値(年度)	28年度	29年度	30年度	目標値(R1年度)
	薬剤注入完了	目 標	()	(400本)	(1,000本)	(完了)	()
		実 績		1,564本	1,654本	完了	
	【R1成果目標】 予防達成率90%以上	目 標	()	()	()	()	(90%以上)
		実 績					
	進捗状況説明	・事前調査により健全木が想定していた数より少なかったため、薬剤の本数が大幅減となったものの、必要な健全木への薬剤注入は完了した。 ・被害木が増加していることを受けて、伐倒本数を増やすことで被害拡大の抑制に努めた。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	- 健全木の保全に取り組んでいるものの、松くい虫被害は増加しており、被害木が増加している。 - 被害木について、優先箇所を検討する必要がある。	- 引き続き松くい虫の被害状況の把握及び健全木への薬剤注入を実施することで、松くい虫被害の抑制を図る。 - 計画的な被害木の伐倒を行い、景観保全を図る。
今後の取り組み方針		
- 健全木の被害状況を調査し、分布マップの更新に取り組む。 - 村道等の被害木の伐倒を優先的に取り組む。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> <tr> <td>5,301</td><td>5,301</td><td>4,240</td><td>1,061</td><td>0</td></tr> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	5,301	5,301	4,240	1,061	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
5,301	5,301	4,240	1,061	0										
北中城村 5,301千円 委託料 5,301千円 第一農業株式会社 5,301千円 ・薬剤樹幹注入 ・赤枯れ松伐倒作業														
資金の流点れ、費目・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・委託事業者は、指名競争入札により選定しており妥当であったと考える。 ・不用額が事業費の5%以内であることから、適正な規模であったと考える。 ・費目や使途については、完了時に検査を実施しており、目的に即し必要であったと判断する。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	北中城村						
平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-⑪	荻道・大城湧水群周辺環境整備事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-イ		
担当部署名	企画振興課	事業実施(予定)年度	平成24年度～令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	市場特性に対応した誘客活動の展開		
					Ⅲ-1-(1)		
事業内容	「平成の名水百選」に選ばれた荻道・大城湧水群を新たな観光資源としての活用を図るため、必要な湧水の確保対策に向けた検討及び散策路として整備するための実施設計を行う。						
効果発現年度	☐ 当年度 ☒ 後年度(4年度)						
実施方法	☐ 直接実施 ☒ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他 ()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	17,162	11,000	10,174	11,190	17,078
		(b) 予算現額	17,162	8,000	16,309	35,930	16,362
		(c) 増減額(b-a)	0	▲ 3,000	6,135	24,740	▲ 716
		(d) 繰越額	—	—	—	—	—
		A. 計(b+d)	17,162	8,000	16,309	35,930	16,362
	B. 執行済額		13,932	7,182	16,308	35,757	14,826
	うち交付金充当額		11,145	5,745	13,046	28,605	11,860
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		81.2%	89.8%	100.0%	99.5%	90.6%
予算の状況の説明		・716千円の補正減額については、入札残によるものである。 ・1,536千円の不用額については、実施設計業務の精算に伴う数量減によるものである。					
活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)		達成状況				
			27年度	28年度	29年度	30年度	
	観光・健康散策路整備実施設計	目標	()	(基本計画の見直し検討)	(基本設計の検討)	(実施設計の検討)	
		実績		基本計画の見直し検討	基本設計の検討	実施設計の検討	
	湧水再生に向けた調査・検討	目標	()	()	()	(調査・検討)	
		実績				調査・検討	
達成状況説明	・昨年度に策定した基本設計に基づき、実施設計を検討することができた。 ・湧水再生に向けた調査・検討として、過年度に設置した雨水浸透柵の機能に係る継続調査や主要なカー(井水)の変動を調査することができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)		基準値(年度)	28年度	29年度	30年度	目標値(R4年度)
	散策路整備実施設計の策定	目標	()	(基本計画の見直し)	(基本設計の策定)	(実施設計の策定)	()
		実績		基本計画の見直し検討	基本設計の策定	実施設計の策定	
	湧水再生に向けた調査検討完了	目標	()	()	()	(調査検討完了)	()
		実績				調査検討完了	
	【R4成果目標】 散策路整備により満足度が向上したかを含め、アンケート調査により本事業のあり方を検証する。	目標	()	()	()	()	(80%以上)
		実績					
	進捗状況説明	・基本設計で策定した散策ルートについて、用地境界や地下埋設物に関する現況等を把握し詳細検討を行ったことで、実施設計を策定することができた。 ・主要なカー(井水)の湧水量調査を行い、湧水群の近況と今後の見通しが把握できたとともに、雨水浸透柵の機能と維持するための課題が把握できたことで、成果目標を達成することができた。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・散策路の詳細検討を行ったことで、整備に向け、関係機関との必要な調整について把握することができた。 ・雨水浸透枡からの雨水が、主要な湧水群へ流れていることが確認されたことから、当該浸透枡の機能を維持していく必要がある。	・整備に向け、道路管理者等の関係機関と早期に調整を行い、着実な工事実施に努める。 ・雨水浸透枡の機能を維持させていくことで、湧水の確保に努める。
今後の取り組み方針		
・策定した実施設計に基づき、案内板等の整備に取り組む。 ・雨水浸透枡の機能性について、定期的に確認を行う。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象 事業費</th><th>交付金 充当額</th><th>市町村 負担金</th><th>交付対象 外経費</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>14,826</td><td>14,826</td><td>11,860</td><td>2,966</td><td>0</td></tr> </tbody> </table>					総事業費	交付対象 事業費	交付金 充当額	市町村 負担金	交付対象 外経費	14,826	14,826	11,860	2,966	0
総事業費	交付対象 事業費	交付金 充当額	市町村 負担金	交付対象 外経費										
14,826	14,826	11,860	2,966	0										
北中城村 14,826千円 委託料 14,826千円 株式会社 沖成コンサルタント 10,884千円 有限会社 MUI景画 3,942千円 中城城跡周辺における観光・健康散策路 整備実施設計業務 荻道・大城湧水群浸透施設モニタリング継 続調査業務														
資金 使途の 流れ、 検 査 費 目・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・委託業者は、指名競争入札により選定しており妥当である。 ・予算規模は、業者見積り及び設計業務等標準積算基準を用いて設定しており、適正な規模である。 ・費目や使途については、精算段階で検査を実施しており、目的に即し必要であると判断する。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	北中城村							
平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	1-⑫	多言語観光案内サイン整備事業	沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所		第3章-3-(2)-イ			
担当部課名	企画振興課	事業実施 (予定)年度	平成30～令和3年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	市場特性に対応した誘客活動の展開			
					Ⅲ-1-(1)			
事業内容	大型商業施設開業、クルーズ船寄港により増加する外国人観光客の利便性・安全性の向上を図るとともに、観光スポットへ誘導し、本村を周遊することを目的に多言語観光案内板を設置する。							
効果発現年度	☐ 当年度 ☒ 後年度(4年度)							
実施方法	☐ 直接実施 ☒ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他 ()							
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+ 「市町村負担」 ベース)			30年度	1年度	2年度	3年度	4年度	
	予算 の 状 況	(a)当初予算額	9,374					
		(b)予算現額	9,374					
		(c)増減額(b-a)	0					
		(d)繰越額	-					
		A. 計(b+d)	9,374					
	B. 執行済額		8,856					
	うち交付金充当額		7,084					
	次年度繰越額		0					
	執行率(%) (B/A)		94.5%					
予算の状況の説明		・不用額518千円については、入札残によるものである。						
活動目標 (指標) 及び達成状況	H30活動目標(指標)		達成状況					
			30年度	1年度	2年度	3年度		
	多言語観光案内板の設置	目 標	(4基)	()	()	()		
		実 績	4基					
	避難誘導サインの設置	目 標	(2基)	()	()	()		
		実 績	2基					
	周辺案内板の設置	目 標	(3基)	()	()	()		
		実 績	3基					
達成 状 況 説 明	・過年度に策定した計画を踏まえ、設置箇所の詳細検討及び関係機関との調整を行うことで、予定通りの場所において設置の検討がなされた。							
成果目標 (指標) 及び進捗状況	H30成果目標(指標)		基準値 (年度)	30年度	1年度	2年度	目標値 (R4年度)	
	多言語観光案内板設置完了	目 標	()	(4基)	()	()	()	
		実 績		4基				
	避難誘導サイン設置完了	目 標	()	(2基)	()	()	()	
		実 績		2基				
	周辺案内板設置完了	目 標	()	(3基)	()	()	()	
		実 績		3基				
	【R4成果目標】 外国人観光客の利便性が確保されたかを 含め、アンケート調査により、本事業のあり 方を検証する。	目 標	()	()	()	()	(80%以上)	
実 績								
進 捗 状 況 説 明	・事業期間内に全て設置が完了し、計画通り成果目標を達成することができた。							

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・災害発生時に対応できるよう早急に整備する必要があるが、サイン整備完了までには複数年の期間を要するため、観光客が多く訪れる箇所を優先的に進めていく必要がある。	・中城城跡、中村家住宅など、多くの観光客が訪れる村内観光施設へ誘導を促す箇所への設置を優先することで、安全かつ利便性の向上を図る。
今後の取り組み方針		
・本事業については、国の補助メニューが新たに創設されたことで、当該補助メニューによる設置を検討する。 ・村内観光施設への周遊促進を図るとともに、災害時の観光客安全確保のため、村防災拠点への誘導に必要なサインの設置に取り組む。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>8,856</td><td>8,856</td><td>7,084</td><td>1,772</td><td>0</td></tr> </tbody> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	8,856	8,856	7,084	1,772	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
8,856	8,856	7,084	1,772	0										
北中城村 8,856千円 → 委託料 8,856千円 → オリエンタルコンサルタンツ 8,856千円 〔多言語観光案内サイン設置業務〕														
資金の 使途の 流れ、 点検、 評価 ・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・委託事業者は、指名競争入札により選定しており妥当であったと考える。 ・不用額が事業費の5%程度であることから、予算規模は適正であったと考える。 ・費目や使途については、完了時に検査を実施しており、目的に即し必要であったと判断する。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	北中城村						
平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-①	アワセゴルフ場地区歴史・まちづくり映像保存事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(13)-ア		
担当部署名	建設課	事業実施(予定)年度	平成24～令和2年度	沖縄振興基本方針該当箇所	早期の事業着手に向けた取組		
事業内容	駐留軍用地「アワセゴルフ場」の返還合意から土地利用に至るまでの過程を歴史文化として継承するため、映像記録及び編集を実施する。						
効果発現年度	☐ 当年度 ☒ 後年度(3年度)						
実施方法	☐ 直接実施 ☒ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他 ()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	940	1,020	1,000	1,100	1,000
		(b) 予算現額	940	1,020	1,000	1,050	1,000
		(c) 増減額(b-a)	0	0	0	▲ 50	0
		(d) 繰越額	—	—	—	—	—
		A. 計(b+d)	940	1,020	1,000	1,050	1,000
	B. 執行済額		940	992	996	1,050	998
	うち交付金充当額		751	794	796	839	798
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		100.0%	97.3%	99.6%	100.0%	99.8%
予算の状況の説明		・計画的な予算執行に努め、業務を遂行した。					
活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)		達成状況				
			27年度	28年度	29年度	30年度	
	住宅建築や公共施設建築等記録映像の撮影時間	目標	(3時間)	(3時間)	(3時間)	(3時間)	
		実績	3時間	3時間	3時間	3時間	
		目標	()	()	()	()	
実績							
達成状況説明	・地権者への仮換地引渡式の状況や村民の願いであった村民体育館の竣工や現在の街並みを撮影をすることができた。 ・跡地利用となる区画整理事業を始めるために行政としてどのような協議を国や沖縄県を行ったかを当時の担当者へインタビュー形式で記録映像として撮影することができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)		基準値(年度)	28年度	29年度	30年度	目標値(R3年度)
	全体の記録映像の作成進捗率	目標	()	(70%)	(86%)	(78%)	()
		実績		70%	67%	78%	
	【R3成果目標】 村HP年間アクセス数	目標	()	()	()	()	(660回)
		実績					
進捗状況説明	・当初、平成30年度を完了年度としていたが、アワセ土地区画整理事業が令和元年度末までの事業期間となった。そのため、令和2年度にこれまでの記録映像の取りまとめを行うこととし、全体の事業期間を9年に延長したため、平成30年度成果目標の全体記録映像進捗率を78%に修正した。 ・仮換地引渡式や公共施設の竣工など、まちづくりの節目を映像記録として収めたことで成果目標を達成することができた。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・全体進捗率は目標を達成しているが、開発状況や土地区画整理組合の行事など、まちづくりの節目となる事案を優先的に撮影する必要があったため、当初計画していた記録内容を変更することとなった。後年度に変更した撮影に取り組む必要がある。	・アワセ土地区画整理事業は環境影響評価の基準に適合した事業であることから、これまでの自然環境及び生活環境の保全等の対策状況を映像として記録し、跡地利用の継承を図る。
今後の取り組み方針		
・自然環境に配慮した跡地利用であることから、環境影響調査における取組状況について記録する。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象 事業費</th><th>交付金 充当額</th><th>市町村 負担金</th><th>交付対象 外経費</th></tr> <tr> <td>998</td><td>998</td><td>798</td><td>200</td><td>0</td></tr> </table>					総事業費	交付対象 事業費	交付金 充当額	市町村 負担金	交付対象 外経費	998	998	798	200	0
総事業費	交付対象 事業費	交付金 充当額	市町村 負担金	交付対象 外経費										
998	998	798	200	0										
北中城村 998千円 委託料 998千円 株式会社 シネマ沖縄 998千円 アワセ土地区画整理事業歴史・ まちづくり映像保存業務														
資金の 用途の 流れ、 検 査 目 的	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
・	○	支出先の選定方法は妥当か。	・委託業者は随意契約により選定しているが、実績を勘案したうえで選定しており妥当であったと考える。 ・不用額が事業費の5%以内であることから、適正な規模であったと考える。 ・費用や用途については、清算時に検査を実施しており、目的に即し必要であったと判断する。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	北中城村							
平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	2-②	キャンプ瑞慶覧特定駐留軍用地推進基金事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(13)-ア		
担当部課名	企画振興課		事業実施(予定)年度	平成25～平成30年度	沖縄振興基本方針該当箇所	早期の事業着手に向けた取組		
						Ⅲ-8		
事業内容	キャンプ瑞慶覧ロウワープラザ地区の跡地利用を推進するため、これまで積み立てた基金を活用し公有地の先行取得を行う。							
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)							
実施方法	■直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他()							
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	118,593	117,400	3,000	3,372	2,537	
		(b) 予算現額	118,593	236,614	2,894	3,702	653	
		(c) 増減額(b-a)	0	119,214	▲ 106	330	▲ 1,884	
		(d) 繰越額	—	—	—	—	—	
		A. 計(b+d)	118,593	236,614	2,894	3,702	653	
	B. 執行済額		117,428	236,604	2,688	3,701	652	
	うち交付金充当額		93,942	189,283	2,150	2,960	521	
	次年度繰越額		0	0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)		99.0%	99.9%	92.9%	100.0%	99.8%	
予算の状況の説明		・公有地の先行取得に向けて、申出者を募った結果、予定より少ない申出数であったことに加えて、買取協議が不成立になったことにより、1,884千円を減額補正した。						
活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)			達成状況				
				27年度	28年度	29年度	30年度	
	公共用地の取得	目 標	(4,500㎡)	(2,894㎡)	(2,679㎡)	(1206㎡)		
		実 績	6,606㎡	215㎡	1,473㎡	0㎡		
		目 標	()	()	()	()		
		実 績						
達成状況説明	・買取申出期間を5月～6月末まで2ヶ月設け、申出者を募った結果、申出希望が1筆(340㎡)あり、買取協議を進めていたが、協議不成立となった。							
成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)			基準値(年度)	28年度	29年度	30年度	目標値(年度)
	全体用地取得率	目 標	()	(100%)	(100%)	(100%)	()	
		実 績		71.8%	87.3%	87.3%		
		目 標	()	()	()	()	()	
		実 績						
	進捗状況説明	・買取協議において、親族の同意が得られないことより申し出を取り下げる事案が発生したが、平成30年度までに買取目標面積9,500㎡に対して、8,294㎡を取得(取得率87.3%)している。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・申出期間を2ヶ月設け周知に努めたが、申出希望が1筆と少なかった。周辺土地の民間売買が高額で取引されていることも申出が少なかった要因であると考え。 ・地権者は売却を希望しているが、親族の理解が得られない等により、買取協議が難航する事案が発生している。契約に至るまでに相当程度の時間を要していることから、契約から移転登記までの手続きの効率化を図る必要がある。	・周辺土地の民間売買が高額になっている現状はあるものの、先行取得制度における5,000万円控除の優遇措置等のメリットを地権者等へ分かりやすく丁寧に説明することで、本事業への理解を得られるよう努める。 ・沖縄防衛局や国税事務所などの関係機関との協議を早期に行うことで、地権者の不利益とならないよう、効率的な事業執行を図る。
今後の取り組み方針		
・引き続き2ヶ月の申出期間を設け、本事業の概要や進捗、メリット等の情報発信を行うことで、先行取得への理解醸成に取り組む。 ・年内での所有権移転登記を完了するため、関係機関(沖縄防衛局、国税事務所)との協議を早期から取り組む。 ・次年度より、取得目標面積を1,500㎡追加し、目標面積を11,000㎡とすることで、公共用地が少ない本地区のまちづくりの推進に取り組む。		

資金の流れ														
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>959</td><td>652</td><td>521</td><td>131</td><td>307</td></tr> </tbody> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	959	652	521	131	307
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
959	652	521	131	307										
北中城村 652千円 委託料 652千円 (公)沖縄県不動産鑑定士協会 (株)あおい不動産研究所 (株)まるい鑑定所 307千円 (ほか、沖縄市負担分(交付対象外経費):307千円) 琉球建設コンサルタント株式会社 345千円 用地取得に関する支援業務 土地価格時点修正業務														
資金の 使途の 流れ、 点検、 評価・ 費目	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・委託業者は、本事業の仕様に対応できる要件等を有しており妥当である。 ・用地取得支援業務の委託事業者については、指名競争入札により選定しており妥当である。 ・不用額は事業費の5%以内であり適正であると判断する。 ・費目・使途については、精算段階で検査を実施しており、目的に即し必要であると判断する。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	北中城村						
平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-①	雇用サポートセンター事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(10)-ア	
担当部署名	企画振興課	事業実施(予定)年度	平成24～令和3年度		沖縄振興基本方針該当箇所	雇用機会の創出・拡大と求職者支援 Ⅲ-2	
事業内容	地域に密着した雇用機会の創出を図るため、雇用サポートセンターにおいて求人と求職者のマッチング等を実施する。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	■直接実施 □委託 □補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	2,364	4,595	4,214	5,012	4,135
		(b) 予算現額	2,364	4,093	4,214	4,214	2,540
		(c) 増減額(b-a)	0	▲ 502	0	▲ 798	▲ 1,595
		(d) 繰越額	-	-	-	-	-
		A. 計(b+d)	2,364	4,093	4,214	4,214	2,540
	B. 執行済額		2,364	3,827	4,079	4,099	2,497
	うち交付金充当額		1,891	3,061	3,263	3,279	1,997
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		100.0%	93.5%	96.8%	97.3%	98.3%
予算の状況の説明		当初、雇用サポートセンターで雇用を予定していた臨時職員について採用を見送ったため、人件費に係る1,595千円を減額補正した。					
活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)		達成状況				
			27年度	28年度	29年度	30年度	
	登録企業の開拓	目 標	(60件)	(60件)	(70件)	(50件)	
		実 績	69件	41件	55件	25件	
	求職者個別支援	目 標	(24件)	(25件)	(25件)	(40件)	
		実 績	33件	46件	33件	38件	
達成状況説明	・新たな登録企業の開拓については、ハローワークとの情報共有や、企業への直接訪問による開拓等取り組んだものの、25件の登録にとどまった。 ・求職者の個別支援として、履歴書・職務経歴書の記入方法の支援や面接対策、マナー指導等を高齢者や若年者に対し38件実施し、目標を概ね達成した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)		基準値(年度)	30年度	1年度	2年度	目標値(年度)
	就業率	目 標	()	(5%以上)	()	()	()
		実 績		4.3%			
		目 標	()	()	()	()	()
		実 績					
	進捗状況説明	・求職者からの相談件数162件に対し、7件の就職が内定したことで、4.3%の就業率となり、概ね成果目標を達成した。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・求職者が求人企業側に求める条件が高いため、希望に近い求人を多職種から選択できるよう、登録企業の開拓を進める必要がある。 ・就業困難者(高齢者や障害者等)に対する採用について、企業開拓を図る必要がある。	・求人者と求職者のマッチング率向上を図ため、幅広く事業所の開拓を推進する。 ・就業困難者を働き手として検討してもえるよう、企業に対し雇用関係給付金等のメリットをPRし、企業開拓を図る。
今後の取り組み方針		
・引き続き、ハローワークとの情報共有や企業訪問等により、幅広く事業所の開拓に取り組む。 ・高齢者や障がい者の雇用促進に向け、企業への雇用関係給付金等に関するメリットのPRに取り組む。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2,497</td><td>2,497</td><td>1,997</td><td>500</td><td>0</td></tr> </tbody> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	2,497	2,497	1,997	500	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
2,497	2,497	1,997	500	0										
<pre> graph LR A[北中城村 2,497千円] --> B[報酬 2,363千円] A --> C[使用料及び賃借料 134千円] B --> D[嘱託員 1名 2,363千円] C --> E[株式会社 プロスタッフ 134千円] D --- F[雇用支援員] E --- G[パソコン賃借料] </pre>														
資金の流点れ、評価目・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
・	○	支出先の選定方法は妥当か。	・支出先の選定は、関係規則等に基づき行っており、妥当であると考え。 ・不用額は事業費の5%以内であり適正であると判断する。 ・費目・使途については、雇用サポート業務に精通した人員を配置しており、目的に即し必要であったと判断する。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	北中城村						
平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-②	グジョブ連携推進事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(10)-ア	
担当部課名	企画振興課	事業実施(予定)年度	平成27～令和3年度		沖縄振興基本方針該当箇所	雇用機会の創出・拡大と求職者支援 Ⅲ-2	
事業内容	児童生徒の勤労観や職業観の育成を図るため、ジョブシャドウイングをはじめとするキャリア教育を実施する。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	□直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			27年度	28年度	29年度	30年度	1年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	14,934	18,001	18,998	18,642	
		(b) 予算現額	13,732	17,820	18,998	18,642	
		(c) 増減額(b-a)	▲ 1,202	▲ 181	0	0	
		(d) 繰越額	—	—	—	—	
		A. 計(b+d)	13,732	17,820	18,998	18,642	
	B. 執行済額		13,720	17,820	18,998	18,642	
	うち交付金充当額		10,976	14,256	15,198	14,913	
	次年度繰越額		0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)		99.9%	100.0%	100.0%	100.0%	
	予算の状況の説明		計画的な予算執行に努め、業務を遂行した。				
活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)		達成状況				
			28年度	29年度	30年度	31年度	
	ジョブシャドウイングの実施(小学校2校)	目 標	()	()	(2校)	()	
		実 績			2校		
	職場体験の実施(中学校1校)	目 標	()	()	(1校)	()	
		実 績			1校		
	出前フォーラムの実施(高校1校)	目 標	(1校)	(1校)	(1校)	()	
		実 績	1校	1校	1校		
	校内ハローワークの開催(1回)	目 標	(2回)	(2回)	(1回)	()	
		実 績	2回	2回	1回		
	きたなかティーンJOBクラブの実施	目 標	()	()	(実施)	()	
実 績				実施			
達成状況説明	・ジョブシャドウイングは小学校2校で開催した。(参加人数192人、協力事業所数102事業所、企業開拓数529社) ・中学生2年生を対象に職場体験を実施した。(参加者数175人、協力事業所数68事業所、企業開拓数160社) ・出前フォーラムについては、村内県立高校において予定通り実施した。 ・校内ハローワークについては目標通り1回開催した。 ・きたなかティーンJOBクラブについては、村内在住の高校生を対象に予定通り実施した。(参加人数31人)						
成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)		基準値(年度)	28年度	29年度	30年度	目標値(年度)
	就業に対する意識が向上したか(80%以上)を含め、アンケート調査により本事業の在り方を検証する。	目 標	()	①70%以上 ②70%以上 ③60%以上 ④60%以上	(80%以上)	(80%以上)	()
		実 績		①97.7% ②96.0% ③61.0% ④71.0%	①100% ②85% ③81% ④98%	95%	
進捗状況説明	・実際に働く姿を観察・体験することで、児童生徒の就業に対するイメージが良いものへと変容し、進路決定への参考となっており、本事業の検証を含め成果目標を達成できた。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・学校行事や事業数との兼ね合いにより、本事業に必要な時間数の確保が難しいものの、各学校での十分な時間数が確保できたことで、児童生徒へ就業について学ぶ機会を与えることができた。 ・本事業での事後アンケート等で、児童生徒の就業に対する意識の向上が見られるため、有意義な事業内容であったと考える。	・教職員に対し本事業の必要性について周知を図ることで、時間数の確保に繋げる。 ・本事業でキャリア教育を受けた児童生徒に対し、進路や就職等に関する追跡調査を行うことで、事業の効果検証を図る。
今後の取り組み方針		
・引き続き、村グッジョブ地域連携協議会を通して、学校や教育機関に対し事業の必要性や年間スケジュール等の周知に努めることで、必要時間数の確保に取り組む。 ・小学校から本事業に参加した生徒が高校卒業にあたり、キャリア教育の取り組み等がどのように進路決定や就職等に影響したか追跡調査に取り組む。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>18,642</td><td>18,642</td><td>14,913</td><td>3,729</td><td>0</td></tr> </tbody> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	18,642	18,642	14,913	3,729	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
18,642	18,642	14,913	3,729	0										
北中城村 18,642千円 委託料 18,642千円 株式会社 ケイオーパートナーズ 18,642千円 北中城村グッジョブ連携推進事業業務														
資金の流 れ、 点 検 評 価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・委託事業者は、実績や知識等を勘案したうえで選定しており、妥当であったと判断する。 ・不用額はなく適正規模であったと判断する。 ・費目・使途については、精算時に検査を実施しており、目的に即し、必要であったと判断する。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	北中城村						
平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4-①	営農支援強化事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(7)-エ	
担当部課名	農林水産課		事業実施(予定)年度	平成24～令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	農林漁業の担い手の育成・確保及び経営安定対策等の強化	
						Ⅲ-1-(6)	
事業内容	専門性の高い営農指導員の指導による、生産から販売までの総合的な営農支援を農業者に行うとともに、安定した農業経営に必要なパイプハウス整備支援を実施する。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	■直接実施 □委託 ■補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
	予算の状況	(a)当初予算額	2,126	4,205	4,414	11,164	4,414
		(b)予算現額	4,079	4,205	4,414	4,414	9,574
		(c)増減額(b-a)	1,953	0	0	▲6,750	5,160
		(d)繰越額	—	—	—	—	—
		A.計(b+d)	4,079	4,205	4,414	4,414	9,574
	B.執行済額		4,080	4,205	4,414	4,414	8,974
	うち交付金充当額		3,263	3,363	3,530	3,530	7,178
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	93.7%
予算の状況の説明		・農家へのパイプハウス整備補助として5,160千円を補正増額した。 ・600千円の不用額については、パイプハウス整備補助の精算による執行残である。					
活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)		達成状況				
			29年度	30年度	1年度	2年度	
	指導員の配置	目標	(2名)	(2名)	()	()	
		実績	2名	2名			
	パイプハウス施設の整備補助	目標	()	(2基)	()	()	
		実績		2基			
達成状況説明	・当初の予定通り、農業に関する専門知識を持った者を指導員として配置することができた。 ・パイプハウス整備を要望する農家に対し、パイプハウス2基を整備することができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)		基準値(年度)	29年度	30年度	1年度	目標値(1年度)
	指導した農家の年間出荷額 3,456千円以上	目標	()	(3,169千円以上)	(3,456千円以上)	()	()
		実績		4,926千円	4,678千円		
	パイプハウス施設の整備完了	目標	()	()	(整備完了)	()	()
		実績			整備完了		
	【R1成果目標】 当該施設から生産される農作物の年間出荷額 ①インゲン321千円以上 ②パッションフルーツ629千円以上	目標	()	()	()	()	(①321千円以上 ②629千円以上)
		実績					
進捗状況説明	・指導した農家へ生産から販売までの支援を行うことで、年間出荷額目標額を達成することができた。 ・希望農家の営農実態について、補助先となるJAおきなわから情報収集し、営農支援体制の検討を行うことで、計画通り2基のパイプハウスを設置することができた。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・営農指導員による農家への生産や農薬指導等により、生産技術の向上が見られる農家が増加したことで、成果目標が達成した要因と考える。一方で、露地栽培農家が多く、長雨や病害虫等による被害が毎年発生しており、その対応を検討する必要がある。 ・JAおきなわと連携し、営農実態について把握したことで、成果目標を達成できたと考える。	・営農指導員による経営指導や新規就農者への支援を継続して行うことで、拡大した販路への生産物の安定供給を図る。 ・意欲ある農業者に対し、パイプハウス整備の支援を行うことで、長雨や病害虫等の被害軽減を図る。
今後の取り組み方針		
・拡大した販路への安定した農産物等の出荷を行うため、引き続き営農指導員による支援・指導に取り組む。 ・パイプハウス整備を希望する農業者への支援を引き続き実施する。		

資金の流れ														
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table><tr><td>総事業費</td><td>交付対象事業費</td><td>交付金充当額</td><td>市町村負担金</td><td>交付対象外経費</td></tr><tr><td>8,974</td><td>8,974</td><td>7,178</td><td>1,796</td><td>0</td></tr></table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	8,974	8,974	7,178	1,796	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
8,974	8,974	7,178	1,796	0										
北中城村 8,974千円 報酬 4,414千円 嘱託員 2名 4,414千円 補助金 4,560千円 沖縄県農業協同組合 4,560千円 農業経営改善指導業務 北中城村パイプハウス整備事業														
資金の 使途の 流れ、 点検 評価・ 費目・	評価	点 検 項 目		評価に関する説明										
	○	支出先の選定方法は妥当か。		・指導員は、面接を経て資格や経験、業務に対する意欲がある者を採用しており、妥当であると判断する。 ・パイプハウス整備については、見積り等を踏まえ積算しており、予算規模は妥当であったと判断する。 ・パイプハウス整備に要する費用の一部を補助先が負担しており、補助要綱に則り妥当であったと判断する。 ・費目・使途については、農業に精通した人員を配置しており、目的に即し必要であったと判断する。										
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	北中城村						
平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4-②	地域ブランド構築事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(9)-イ	
担当部署名	企画振興課		事業実施(予定)年度	平成24～令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	県産品の販路拡大と地域ブランドの形成 Ⅲ-1-(6)	
事業内容	特産品の販売促進を図るため、過年度に開発した商品のブラッシュアップや特産品取扱店舗の維持・開拓、既存商品のテストマーケティングやPR活動を実施する。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	■直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	(a) 当初予算額	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
		(b) 予算現額	16,200	9,440	9,677	5,188	4,092
		(c) 増減額(b-a)	22,032	10,488	12,373	5,214	4,102
		(d) 繰越額	5,832	1,048	2,696	26	10
		A. 計(b+d)	—	—	—	—	—
		B. 執行済額	22,032	10,488	12,373	5,214	4,102
		うち交付金充当額	19,247	7,753	10,329	5,191	4,101
		次年度繰越額	15,397	6,202	8,263	4,153	3,280
		執行率(%) (B/A)	0	0	0	0	0
	87.4%	73.9%	83.5%	99.6%	100.0%		
予算の状況の説明	・首都圏でのテストマーケティングに伴う旅費実績に伴い10千円の増額補正を行った。						
活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)		達成状況				
			28年度	29年度	30年度	1年度	
	開発した特産品取扱店の維持・開拓	目標	(開拓)	(維持・開拓)	(維持・開拓)	()	
		実績	1店舗開拓	6店舗の維持・開拓	8店舗の維持・開拓		
	既存商品のテストマーケティング及びPR	目標	()	(実施)	(実施)	()	
		実績		実施	実施		
達成状況説明	・北中城村産パッションフルーツを村内事業者の有償販売し、事業者の創意工夫による既存商品のブラッシュアップに取り組んでもらうことで、取扱店の維持・開拓ができた。 ・東京都内において、アーサを使った既存商品やパッションフルーツを使った既存商品のテストマーケティングを実施することができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)		基準値(年度)	30年度	1年度	2年度	目標値(年度)
	アーサクッキー販売額	目標	()	(120千円)	()	()	()
		実績		120千円			
	アーサ麺販売額	目標	()	(880千円)	()	()	()
		実績		1,100千円			
	パッションスイーツ販売額	目標	()	(60千円)	()	()	()
		実績		8千円			
	トロピカルブレンドティー販売額	目標	()	(17千円)	()	()	()
		実績		19千円			
	パッションフルーツカクシ販売額	目標	()	(17千円)	()	()	()
		実績		20千円			
	パッションフルーツタコライス販売額	目標	()	(55千円)	()	()	()
		実績		63千円			
	進捗状況説明	・事業者の創意工夫による既存商品のブラッシュアップにより、「東京ハーヴェスト」等でこれら開発商品を販売したことで、パッションスイーツを除く全商品において成果目標を達成することができた。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・初の試みとして、商品開発の原料となるパッションフルーツピューレを村内事業者向けに販売したが、需要が供給を上回ったことから、事業者の需要に応える必要がある。	・JAおきなわ、パッションフルーツ生産者等との連携・事前調整を密にすることで、パッションフルーツピューレを増産し、事業者の需要に応えることで、パッションフルーツブランド化を図る。
今後の取り組み方針		
・商品加工するためのパッションフルーツの確保及びパッションフルーツピューレの増産に取り組む。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)				
北中城村 4,101千円 委託料 3,984千円 株式会社 生産者直売のれん会 3,984千円 旅費 117千円 特別旅費 1名 117千円 （北中城村の食材のブランド化を目的とした商品開発業務） （首都圏テストマーケティング・東京ハーヴェスト(東京都)）				
	総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金
	4,101	4,101	3,280	821
				交付対象外経費
				0
資金の流 点、検 費 目・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明	
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・委託事業者は、プロポーザル方式で選定しており、妥当であったと判断する。 ・不用額は5%以内であり、適正な規模であったと判断する。 ・費目・使途については、精算段階で検査を実施しており、目的に即し必要なものであったと判断する。	
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。		
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。		
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		

市町村名	北中城村						
平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4-③	農を活かした北中城活性化事業	沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-3-(7)-カ			
担当部課名	農林水産課	事業実施 (予定)年度	平成28～令和3年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	亜熱帯・島しょ性に適合した農林 水産業の基盤整備		
事業内容	耕作放棄地の解消や農業従事者不足の解消を図り、持続性のある農業を確立するため、水耕栽培の実証実験実施及び栽培品を活用した6次化商品の検討を行う。また、農業施設に利活用可能なエネルギー・堆肥製造に向けた食物残渣を再資源とするバイオガス発電設備が機能を発揮しうるか検証調査を行う。						
効果発現年度	□当年度 ■後年度(2年度,5年度)						
実施方法	■直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+ 「市町村負担」 ベース)			28年度	29年度	30年度	1年度	2年度
	予算 の 状 況	(a)当初予算額	15,140	14,943	25,499		
		(b)予算現額	105,134	52,557	30,927		
		(c)増減額(b-a)	89,994	37,614	5,428		
		(d)繰越額	—	—	—		
		A. 計(b+d)	105,134	52,557	30,927		
	B. 執行済額		103,174	52,301	30,267		
	うち交付金充当額		82,539	41,841	24,213		
	次年度繰越額		0	0	0		
	執行率(%) (B/A)		98.1%	99.5%	97.9%		
予算の状況の説明		・5,428千円の増額については、再生可能資源(食物残渣)を活用した北中城産業の活性化推進(基本計画策定)業務を新たに加えたことによるものである。					
活動目標 (指標) 及び達成状況	H30活動目標(指標)		達成状況				
			28年度	29年度	30年度	1年度	
	水耕栽培実証実験の実施	目 標	(実証実験設備 の整備)	(実証実験実施)	(実証実験実施)	()	
		実 績	実証実験設備の整備 完了	実証実験実施	実証実験実施		
	6次産業化商品の試作開発及び市場性の 検討	目 標	()	()	(実施)	()	
		実 績			実施		
	再生可能資源を活用したエネルギー化・堆 肥化等の設備・装置の構築(製作)検討及 び実証実験の実施に向けた基本計画の検 討	目 標	()	(調査の実施)	(調査・検討の 実施)	()	
		実 績		調査の完了	調査・検討の実施		
達成 状 況 説 明	・水耕栽培実証実験では、栽培4品目以上の生産性及び適正な生育環境の構築などの実証を行った。 ・水耕栽培品目を活用した6次化商品の試作品作りに取組み、3品の試作品開発を行った。 ・生ごみの構成成分等に係る詳細調査では、バイオガス発電設備が機能を発揮しうるか否かについて残渣品質及び長期的な発酵試験などの実施を行い、それを踏まえて事業化への調査・検討を行った。						
成果目標 (指標) 及び進捗状況	H30成果目標(指標)		基準値 (年度)	28年度	29年度	30年度	目標値 (R2年度)
	水耕栽培実証実験の完了	目 標	()	(実証実験 設備の整備)	(実証実験 の完了)	(実証実験 の完了)	()
		実 績		完了	完了	完了	
	6次産業化試作品の開発	目 標	()	()	()	(3品)	()
		実 績				3品	
	再生可能資源を活用したエネルギー化・堆 肥化等の設備・装置の構築(製作)検討報 告及び実証実験の実施に向けた基本計画 の策定	目 標	()	()	(完了)	(基本計画 の策定)	()
		実 績			完了	基本計画の策定	
	【R2成果目標】 水耕栽培事業者数の増 0 → 6人	目 標	()	()	()	()	(6人増)
		実 績					
	進捗 状 況 説 明	・水耕栽培実証実験では、4品目において生育期間や生産量・質に関する栽培成果を得ることができた。 ・水耕栽培品目を活用した6次化商品の試作では、地元飲食店や加工企業との協力を得て3品の試作品開発を行った。 ・生ごみの構成成分等に係る詳細調査では、バイオガス発電設備が機能を発揮しうるか否かを調査した結果、研究室での長期試験結果において、事業化レベルの数値を得ることができた。また、各データ・資料などの検証により実証実験に向けた基本計画を策定することができた。					

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	(水耕栽培実証実験) ・目標とする栽培成果4品目を達成したものの、成功には至らなかった栽培品目もあり、それぞれの栽培設備・方法等の課題解決に取組む必要がある。 ・栽培品目の6次産業化に向けた試作品においては、協力企業と共に更なる品質向上を図り、栽培・生産に関する販売への確かな見通しを付ける必要がある。 (再生可能資源(食物残渣)によるバイオマスガス発電設備) ・食物残渣の詳細分析の結果、メタンガス発生の有効性は高いとの成果を得たが、アンモニアの発生対策も含めた消化液の取扱いも検討しなければならないことから、有効かつ効率的な設備・装置の構築及び事業展開に向けた更なる検討を行う必要がある。	(水耕栽培実証実験) ・それぞれの実証設備の改善・改修による栽培環境の向上と栽培方法の工夫を図る。 ・水耕栽培品目を活用した6次産業化試作品の品質・生産性向上や販路対策などについて検討を行う。 (再生可能資源(生ごみ)によるバイオガス発電設備) ・食物残渣の有効かつ効率的な設備・装置の構築及び事業展開についての可能性検証や効率の良いエネルギー生産、消化液の少量化・堆肥化への対策検討などを行う。
今後の取り組み方針		
(水耕栽培実証実験) ・栽培環境の改善・効率化を図ることで、栽培収量及び栽培品目の増加に取り組む。 ・水耕栽培設備の構築に関する図面・製作費用・インフラ整備などに関する基本製作マニュアル、栽培品目の栽培マニュアル、栽培に關しての設備オペレーションマニュアルの作成に取り組む。 ・栽培品目を活用した6次産業化試作品の商品化について取り組む。 (再生可能資源(生ごみ)によるバイオガス発電設備) ・生ごみのエネルギー化・堆肥化への設備・装置の構築に向けたモデルとなる基本プランの検討、それらを踏まえた事業化に取り組む。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> <tr> <td>30,290</td><td>30,267</td><td>24,213</td><td>6,054</td><td>23</td></tr> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	30,290	30,267	24,213	6,054	23
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
30,290	30,267	24,213	6,054	23										
北中城村 30,267千円 委託料 27,805千円 株式会社オリエンタルコンサルタンツ沖縄支店 22,389千円 株式会社オリエンタルコンサルタンツ沖縄支店 5,416千円 需用費 2,407千円 沖縄電力株式会社 2,339千円 北中城村 68千円 役務費 55千円 東京海上日動火災保険 47千円 KDDI株式会社 2千円 エルモ社 (フロンティアカンパニー) 6千円 コンテナ式水耕栽培実証実及び栽培品目の6次化検証の実施業務 再生可能資源を活用した北中城産業の活性化推進(基本計画策定)業務 コンテナ式水耕栽培実証実験設備電気料金 コンテナ式水耕栽培実証実験設備水道料金 コンテナ式水耕栽培実証実験設備火災保険代 火災保険代(R1年4月～7月分)交付対象外経費：23千円 コンテナ式水耕栽培実証実験設備遠隔監視カメラ・インターネット費														
資金の使途の流点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明											
○	○	支出先の選定方法は妥当か。	・委託事業者は、公募型プロポーザル方式で選定しており、妥当であったと考える。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	・不用額が事業費の5%以内であることから、予算規模は適正であったと考える。											
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	・費用・使途は、事業内容を勘案して適切かつ事業目的に即し真に必要なものであったとの確認を業務完了時の検査において精査しており、妥当なものであると判断した。											
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	北中城村							
平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	4-④	農を活かした健康・福祉の里づくりに向けた推進事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(7)-キ			
担当部署名	農林水産課	事業実施(予定)年度	平成30～令和1年度	沖縄振興基本方針該当箇所	フロンティア型農林水産業の振興			
					Ⅲ-1-(6)			
事業内容	農を活かした健康福祉施設の整備に向けた実施計画を策定する。							
効果発現年度	☐ 当年度 ☒ 後年度(2年度)							
実施方法	☐ 直接実施 ☒ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他 ()							
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			30年度	31年度	1年度	2年度	3年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	9,887					
		(b)予算現額	9,887					
		(c)増減額(b-a)	0					
		(d)繰越額	-					
		A.計(b+d)	9,887					
	B.執行済額		9,785					
	うち交付金充当額		7,827					
	次年度繰越額		0					
	執行率(%) (B/A)		99.0%					
予算の状況の説明		・計画的な予算執行に努め、業務を遂行した。						
活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)		達成状況					
			30年度	1年度	2年度	3年度		
	県、国関係部局との調整、協議を実施	目標	(調整・協議の実施)	()	()	()		
		実績	調整・協議の実施					
	住民調整、意向把握の実施	目標	(調整・意向の把握)	()	()	()		
		実績	調整・協議の把握					
	実施計画の策定	目標	(策定)	()	()	()		
		実績	策定					
	達成状況説明	・過年度に策定した「農を活かした健康福祉活動の展開に資する基本構想・基本計画」について再検証を図るため、関係機関との調整、住民意向の把握を行い、再検証を図ることで、実施計画・行動計画へと繋がる基本計画の見直しを行った。 ・策定した計画へ賛同・関心を持つ事業者候補の抽出を行った。						
	成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)		基準値(年度)	30年度	1年度	2年度	目標値(R1年度)
実施計画策定完了		目標	()	(策定完了)	()	()	()	
		実績		策定完了				
【R1成果目標】 策定する実施計画において成果を設定する		目標	()	()	()	()	(成果を設定する)	
		実績						
進捗状況説明		・過年度に策定した「農を活かした健康福祉活動の展開に資する基本構想・基本計画」について、関心を持つ企業へのヒアリングや地元自治会役員会での意見交換、庁内関係部署との調整を進めることで、実施計画を策定することができた。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・計画の推進にあたっては、村内営農者や地域住民等への周知・理解醸成が必要である。	・村内営農者や地域住民を交えた周知、実践する人材や企業などの取り込みを行うことで、計画の推進を図る。
今後の取り組み方針		
・計画推進に向け、地域説明会や意見交換会を行い、今後の人材育成、意欲ある農業者の掘り起こしに取り組む。 ・滞在型市民農園における営農指導員の人材育成に取り組む。		

資金の流れ				
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)				
北中城村 9,785千円 委託料 9,785円 株式会社オリエンタルコンサルタンツ 沖縄支店 9,785円 農を活かした健康福祉活動の展開に資する基本計画を踏まえた事業推進業務				
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
9,785	9,785	7,827	1,958	0
資金の流 れ、点 検、費 目・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明	
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・委託事業者は、公募型プロポーザル方式で選定しており、妥当であったと考える。	
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	・不用額が事業費の5%以内であることから、予算規模は適正であったと考える。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	・費用・使途は、事業内容を勘案して適切かつ事業目的に即し真に必要なものであったとの確認を業務完了時の検査において精査しており、妥当なものであったと判断する。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		

市町村名	北中城村						
平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	5-①	総合英会話指導支援事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(4)-ア	
担当部課名	教育総務課	事業実施(予定)年度	平成24～令和3年度		沖縄振興基本方針該当箇所	国際社会、社会情勢に対応した教育の推進	
						Ⅲ-3-(1)	
事業内容	生きた英語に触れることで、児童生徒の英会話への興味・関心を高めるため、村立小中学校に英会話指導員を配置する。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	■直接実施 □委託 □補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
	予算の状況	(a)当初予算額	6,552	6,552	7,938	7,938	7,938
		(b)予算現額	6,360	6,497	6,734	6,347	6,367
		(c)増減額(b-a)	▲192	▲55	▲1,204	▲1,591	▲1,571
		(d)繰越額	—	—	—	—	—
		A.計(b+d)	6,360	6,497	6,734	6,347	6,367
	B.執行済額		6,322	5,438	6,641	6,248	6,360
	うち交付金充当額		5,057	4,350	5,312	4,998	5,088
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		99.4%	83.7%	98.6%	98.5%	99.9%
予算の状況の説明		・夏休み等の長期休業中の勤務実績分を補助対象外経費としたことで1,571千円を減額した。					
活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)		達成状況				
			27年度	28年度	29年度	30年度	
	英会話指導員の配置 小学校:1人 中学校:1人 幼小兼務:1人	目標	(3人)	(3人)	(3人)	(3人)	
		実績	3人	3人	3人	3人	
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	・村立小中学校すべてに指導員を配置することができたことで、円滑に事業を実施することができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)		基準値(年度)	28年度	29年度	30年度	目標値(年度)
	英語検定(英検Jr.含む)の受検者数	目標	()	(450人)	(435人)	(435人)	()
		実績		513人	272人	357人	
	英会話に対する興味・関心が高まった割合	目標	()	()	(80%以上)	(80%以上)	()
		実績			98.1%	98.8%	
	進捗状況説明	・英検受検者数については、検定実施日と中体連が重なるなどの事態も生じたが、目標達成率が82%となり、概ね達成することができた。 ・外国人指導員による生きた英語に触れることで、生徒の英語に対する関心度が高まり、アンケートによる英語に関する意欲が高まった割合が98.8%と大きく成果目標を達成することができた。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	- 継続的にネイティブスピーカーによる生きた英語を体験することで、英語の授業が楽しいと感じる児童生徒が94.7%もいることから、成果目標を達成する要因になったと考える。 - 英語に興味、関心を持つ生徒の割合は高いものの、学校の主要行事と検定日が重なったことが受験者数に影響を与えていると考える。	- 引き続き、英語担当教諭と英会話指導員が、指導方法等についての意見交換や情報交換を行い、個々の指導力の向上を図ることで、児童生徒の英語に対する興味・関心の高揚に努める。 - 日程の都合等により受験できない生徒がいるものの、英検受験が可能な生徒に対して周知強化を図り、多くの生徒へ英検受験を促進する。
今後の取り組み方針		
- 引き続き、定期的に英語担当教諭と指導員が集まる機会を設ける。 - 長期休暇を利用し各学校の取り組みや指導方法の情報交換を行うことで指導力向上に取り組む。 - 英語検定、英検Jrについての案内・周知の徹底を図りながら、受験機会の創出に取り組む。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)				
総事業費	交付対象 事業費	交付金 充当額	市町村 負担金	交付対象 外経費
7,931	6,360	5,088	1,272	1,571

北中城村
7,931千円

→

報酬
7,931千円

→

嘱託員(北中城小学校)
2,646千円

(夏休み等
対象外経費526千円)

(総合英会話指導支援事業に係る嘱託員報酬)

→

嘱託員(北中城中学校)
2,646千円

(夏休み等
対象外経費516千円)

(総合英会話指導支援事業に係る嘱託員報酬)

→

嘱託員(島袋小学校・北中城幼稚園)
2,639千円

(夏休み等
対象外経費529千円)

(総合英会話指導支援事業に係る嘱託員報酬)

資金の 使途の 流れ、 点検 評価・ 費目・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○指導員は英語を母国語とする外国人を積極的に採用。昨年度からの継続者のため、面談や学校への聞き取りを行い、指導力等を判断しているため妥当であると考え。 ○予算規模については、村規則等に基づき積算しており妥当であったと考える。 ○費用・使途は事業目的に即したものであり適切であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	北中城村						
平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	5-②	アメリカ教育機関ネットワーク形成事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(4)-ア	
担当部課名	生涯学習課	事業実施(予定)年度	平成24～令和3年度		沖縄振興基本方針該当箇所	国際社会、社会情勢に対応した教育の推進 Ⅲ-3-(1)	
事業内容	国際社会に対応できる人材を育成するため、米国教育機関とのWEBシステムによる集中講座を実施する。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	■直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	4,755	6,553	5,422	5,422	5,422
		(b) 予算現額	4,755	6,553	5,422	5,514	5,719
		(c) 増減額(b-a)	0	0	0	92	297
		(d) 繰越額	-	-	-	-	-
		A. 計(b+d)	4,755	6,553	5,422	5,514	5,719
	B. 執行済額		3,817	5,430	5,383	5,474	5,694
	うち交付金充当額		3,053	4,344	4,306	4,379	4,555
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		80.3%	82.9%	99.3%	99.3%	99.6%
予算の状況の説明		・297千円の予算増額については、委託業務の精算に伴うものである。					
活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)		達成状況				
				27年度	28年度	29年度	30年度
	中学生クラス:64回 (前期32回・後期32回)	目 標	(64回)	(64回)	(64回)	(64回)	
		実 績	64回	64回	64回	64回	
	小学生クラス:64回 (前期32回・後期32回)	目 標	(64回)	(64回)	(64回)	(64回)	
		実 績	64回	64回	64回	64回	
達成状況説明	・小学生クラス・中学生クラスともに計画通りの講義を開催することで、活動目標を達成することができた。 ・児童・生徒の英語力が向上するとともに、授業での積極性や自身で考えて意見を述べる力なども養われており、本村の国際性に富む人材育成へ向け児童生徒自身の意識を高めることができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)		基準値(年度)	30年度	1年度	2年度	目標値(年度)
	定期テストにおける英語習熟度:講座を受けた生徒全員80点以上	目 標		前期:全生徒 後期:全生徒			
		実 績		前期:22名中5名 後期:20名中5名			
		目 標					
		実 績					
	進捗状況説明	・昨年度から受講している受講生の多くは目標点数を上回っているものの、新規受講生で習熟度の差が見られたため、成果目標を達成することができなかった。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	新規受講生と継続受講生との英語力の差があるため、講座の実施方法について検討する必要がある。	- 新規受講生に対する英語力向上の支援体制を強化することで、英語力の底上げを図る。 - 継続受講する生徒には、前年度より難易度の高い課題を追加することで、受講生全体の英語力の向上を図る。
今後の取り組み方針		
- 講座に日本人の補助員を配置し、新規受講生等に対しても、理解を深めることができる学習体制の構築に取り組む。 - 継続受講する生徒に対し、前年度より難易度の高い課題を与えることで、さらなる英語力の向上に取り組む。		

資金の流れ				
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)				
		総事業費	交付対象事業費	交付金充当額
		6,096	5,694	4,555
				市町村負担金
				1,139
				交付対象外経費
				402
北中城村 5,694千円 需用費 34千円 有限会社 文正堂 34千円 〔講義用消耗品〕 役務費 127千円 NTTコミュニケーションズ 127千円 〔ネット回線利用料〕 委託料 5,430千円 DOT E Solutions株式会社 5,430千円 〔・ESLライブ授業の管理運営〕 使用料 103千円 あやかりの杜 103千円 〔施設使用料〕				
資金用途の流れ、検・評価目・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明	
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・委託事業者については、米国大学との交渉、契約等を県内で行える唯一の事業者であることから妥当といえる。	
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	・予算規模は事業者より見積もりを取っており適正である。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	・受講生からは受講料を徴収しており、受益者との負担関係は妥当である。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	・費目、用途については、大学へ支払う受講料、人件費、米国との交渉等に係る費用として必要である。	

市町村名	北中城村													
平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】														
事業番号・事業名	5-③		海外子弟青年交流事業				沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第3章-4-(1)-ア					
担当部課名	総務課		事業実施(予定)年度		平成24～令和3年度		沖縄振興基本方針該当箇所		国際ネットワークの形成と多様な交流の推進					
									Ⅲ-3-(1)					
事業内容	北中城村と海外を結ぶ懸け橋となる人材育成を図るため、南米3カ国(ペルー、アルゼンチン、ブラジル)の村人会に研修生を派遣するとともに、当該3カ国から研修生の受入れを実施する。													
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)													
実施方法	■直接実施 □委託 ■補助 □負担 □その他()													
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況		26年度		27年度		28年度		29年度		30年度			
			(a)当初予算額		4,838		4,413		4,490		4,122		4,222	
			(b)予算現額		4,838		4,189		3,540		3,516		3,135	
			(c)増減額(b-a)		0		▲224		▲950		▲606		▲1,087	
			(d)繰越額		—		—		—		—		—	
	A. 計(b+d)		4,838		4,189		3,540		3,516		3,135			
	B. 執行済額		3,456		3,733		3,385		3,432		3,018			
	うち交付金充当額		2,765		3,451		2,708		2,745		2,414			
	次年度繰越額		0		0		0		0		0			
	執行率(%) (B/A)		71.4%		89.1%		95.6%		97.6%		96.3%			
予算の状況の説明		・1,087千円の予算減額については、日本語研修講師謝礼報酬(▲225千円)、海外子弟研修生受入れに伴う旅費(▲374千円)及び海外派遣受入補助金(▲488千円)の実績によるものである。 ・117千円の不用額については、文化研修研修講師謝礼報酬、消耗品及び役務費の実績に伴うものである。												
活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)			達成状況										
				27年度		28年度		29年度		30年度				
	北中城村青年派遣生人数			目標	(2人)		(2人)		(2人)		(2人)			
				実績	2人		2人		2人		2人			
	海外移住者子弟受入生人数			目標	(3人)		(3人)		(3人)		(3人)			
				実績	3人		3人		3人		3人			
達成状況説明	・北中城村青年派遣生については、公募を実施し、計画通り2名を派遣することで、ホームステイを通じた習慣・文化の交流、学校や資料館などの視察による移民の歴史を知ることができた。 ・海外移住者子弟受入生については、南米3カ国の村人会と連携を図り、計画通り3名を受け入れることで、ホームステイや伝統芸能講座を通じた沖縄の文化・習慣を体験することができた。													
成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)			基準値(年度)		30年度		1年度		2年度		目標値(年度)		
	受け入れた研修生が、沖縄の文化や歴史により興味を持ったか(80%以上)を含め、アンケートで本事業のあり方を検証する。			目標	()		(80%)		()		()			
				実績			80%							
	派遣した研修生が、海外の子弟と交流することによって派遣先の文化や歴史に興味を持ったか(80%以上)を含め、アンケートで本事業のあり方を検証する。			目標	()		(80%)		()		()			
				実績			80%							
	進捗状況説明	・研修生に研修先の歴史、文化への興味を持ったか等のアンケートをした結果、興味を持ったとする回答が80%に達し、成果目標を達成することができた。												

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・海外移住者子弟研修生と受入家庭との円滑なマッチングを図るため、サポートシステムの構築を図る必要がある。 ・海外移住者子弟研修生の日本語の習熟度が低く、受入家庭や関係者との意思疎通が取れない部分があったことが課題である。	・引き続き、受入家庭からの意見を取り入れ、サポート体制を作り上げることで、受け入れの負担軽減を図る。 ・海外移住者子弟受入生について、研修の意義を理解させたくうえで研修へ取り組むことができるよう、村人会と本事業のあり方を協議する必要がある。
今後の取り組み方針		
・海外移住者子弟研修生の受入れについて、ハウスルールの作成等によるサポートシステムの構築を図ることで、受入家庭の負担軽減に取り組む。 ・日本語の習熟度に付いては、研修意義を理解させてから研修へ取り組めるよう、研修生選定時に日本語学習、三線基礎練習を終えたものを推薦するよう、南米3カ国の村人会へ依頼する。		

資金の流れ				
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)				
		総事業費	交付対象事業費	交付金充当額
		3,262	3,018	2,414
			市町村負担金	交付対象外経費
			604	244
北中城村 3,018千円	報償費 265千円	文化研修講師謝礼金 90千円	文化研修 3講師×30千円	
		日本語研修講師謝礼金 175千円	3,500円×50時間	
	旅費 1,169千円	(有)ウィング沖縄 1,093千円	渡航費	
		離島研修費 76千円		
	需用費 7千円	(有)文正堂 1千円	消耗品費(賞状)	
		紙商 6千円	報告書用紙	
	役務費 49千円	大同火災海上保険株式会社 38千円	損害保険料	
		郵便局 11千円	通貨運搬費	
	補助金 1,528千円	海外移住者子弟受入家庭(3世帯) 657千円	海外移住者子弟受入れに係る経費補助	
		北中城村青年派遣生(2人) 871千円	北中城村青年派遣に係る経費補助	
		ほか、視察費、ビザ申請代金等交付対象外経費: 244千円		
資金の 用途の 流れ、 検 査 目	評価	点 検 項 目		評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。		・研修生及び派遣生については、村及び各村人会で面接等により選抜しており、妥当であったと判断する。 ・不用額は事業費の5%以内であり適正な規模であった。 ・研修生に対し、研修に必要な費用(滞在費・旅費等)のみを補助対象としており、負担関係は妥当であったと考える。 ・使途について、精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。		
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。		
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		

市町村名	北中城村						
平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	6-①	琉球歴史風致資産調査事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(4)-ア	
担当部署名	生涯学習課	事業実施(予定)年度	平成24～令和3年度		沖縄振興基本方針該当箇所	沖縄の文化の源流を確認できる環境づくり	
事業内容	北中城村の伝統文化を継承し、住民等への普及・活用を図るため、歴史風致資産に関する文献資料等の調査、伝統的祭祀の映像記録の一般公開に向けた監修作業等を行う。						
効果発現年度	☐ 当年度 ☒ 後年度(3年度)						
実施方法	☒ 直接実施 ☐ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他 ()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
	予算の状況	(a)当初予算額	23,315	9,459	8,881	8,881	8,835
		(b)予算現額	23,315	9,019	8,881	8,831	8,835
		(c)増減額(b-a)	0	▲440	0	▲50	0
		(d)繰越額	—	—	—	—	—
		A.計(b+d)	23,315	9,019	8,881	8,831	8,835
	B.執行済額		23,022	8,947	8,795	8,822	8,828
	うち交付金充当額		18,418	7,157	7,036	7,057	7,062
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		98.7%	99.2%	99.0%	99.9%	99.9%
予算の状況の説明		・計画的な予算執行に努め、業務を執行することができた。					
活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)		達成状況				
			27年度	28年度	29年度	30年度	
	・民俗祭祀行事調査の取りまとめ	目標	()	()	()	(30件)	
		実績				30件	
	・調査記録の公開に向けた編集及び監修作業	目標	(仕様検討)	(10件)	(15件)	(15件)	
		実績	仕様設計の完了	14件	15件	15件	
達成状況説明	・各指標とも計画的に業務を進めたことで順調に進捗している。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)		基準値(年度)	28年度	29年度	30年度	目標値(R3年度)
	・歴史風致資産等に関する詳細資料の完成	目標	()	(200箇所)	(200箇所)	(詳細資料の完成)	()
		実績		204箇所	200箇所	詳細資料の完成	
	【R3成果目標】WEB公開による年間アクセス数 660回	目標	()	()	()	()	(660回)
		実績					
	進捗状況説明	・損壊データの修復等、予定外の作業が生じたものの、順調に成果目標を達成することができた。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・調査記録動画の公開用資料化について、原案1件が完成した時点で、その都度1件ずつ監修をかけているが、この手順が原因で編集担当者の作業が煩雑になっているため、監修方法を見直す必要がある。 ・これまでに校了した動画の動作確認(編集ソフト内のデータをDVDに出力しTVで視聴)を実施したところ、動画編集ソフトのコーデックの設定ミスがあり、PC上とTV上とでの画角が一致せず、説明キャプションが一部表示されない(画面からはみだす)状態にあることが判明した。また、原因は不明であるが、一部音声ファイルが損壊していたため、修復作業等の対応が必要となっている。	・内容が類似する調査記録については、数件まとめて監修・再編集をかけることで各々に共通の修正点を一度に処理することができ、作業効率の向上が期待できる。 ・校了後の動画は、TV等別媒体での動作確認により画角やファイルの状態をチェックし、監修保たれている状態で保存する必要がある。
今後の取り組み方針		
・監修・再編集の手順を工夫し、内容が類似するものについてはまとめて行うなど、作業の効率化に取り組む。 ・校了済みの動画については直ちに別媒体で動作確認を行なうとともに、DVD等の記録媒体へ出力・保存することでデータの保全に取り組む。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象 事業費</th><th>交付金 充当額</th><th>市町村 負担金</th><th>交付対象 外経費</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>8,828</td><td>8,828</td><td>7,062</td><td>1,766</td><td>0</td></tr> </tbody> </table>					総事業費	交付対象 事業費	交付金 充当額	市町村 負担金	交付対象 外経費	8,828	8,828	7,062	1,766	0
総事業費	交付対象 事業費	交付金 充当額	市町村 負担金	交付対象 外経費										
8,828	8,828	7,062	1,766	0										
北中城村 8,828千円 報酬 7,240千円 嘱託員 3名 7,240千円 賃金 1,588千円 臨時職員 1名 1,588千円 （歴史風致資産調査業務） （歴史風致資産調査業務）														
資金 使途の 流れ、 検 査 費 目	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・支出先について、村規則にのっとり専門知識を有する人員を委嘱しており妥当であったと考える。 ・不用額が予算額の5%以下となっており、適正な規模であったと考える。 ・費目・使途については、事業目的達成の観点から必要なものか等について、額の確定時において支出に関する書類を点検した結果、適正であったと考える。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	北中城村						
平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	7-①	特別支援教育支援員配置事業			沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-2-(2)-エ	
担当部課名	教育総務課	事業実施 (予定)年度	平成25～令和3年度		沖縄振興基本方針 該当箇所	要保護児童やひとり親家庭等への支援	
						Ⅲ-3	
事業内容	特別な支援を要する障害がある児童生徒について、学校生活や学習上の困難の改善を図るため、村立幼稚園、小学校、中学校に特別支援教育支援員を配置する。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	■直接実施 □委託 □補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+ 「市町村負担」 ベース)			26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
	予算 の 状 況	(a)当初予算額	29,429	29,430	46,220	53,729	31,932
		(b)予算現額	26,319	26,607	38,066	44,607	34,115
		(c)増減額(b-a)	▲ 3,110	▲ 2,823	▲ 8,154	▲ 9,122	2,183
		(d)繰越額	—	—	—	—	—
		A. 計(b+d)	26,319	26,607	38,066	44,607	34,115
	B. 執行済額		26,277	25,704	37,560	44,169	34,115
	うち交付金充当額		21,021	20,563	30,047	35,335	27,292
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		99.8%	96.6%	98.7%	99.0%	100.0%
予算の状況の説明		・中学校に1対1での丁寧な支援を要する生徒がいたため、予定より1名多く支援員を採用したことで、2,183千円を増額した。					
活動目標 (指標) 及び達成状況	H30活動目標(指標)		達成状況				
			27年度	28年度	29年度	30年度	
	特別支援教育支援員の配置 小学校2校:12名 中学校1校:5名 幼稚園1園:5名	目 標	小学校:11人 中学校:4人 幼稚園:4人	小学校:16人 中学校:7人 幼稚園:5人	小学校:16人 中学校:7人 幼稚園:7人	小学校:12人 中学校:5人 幼稚園:5人	
		実 績	小学校:11人 中学校:4人 幼稚園:3人	小学校:16人 中学校:7人 幼稚園:5人	小学校:16人 中学校:7人 幼稚園:7人	小学校:12人 中学校:6人 幼稚園:5人	
		目 標	()	()	()	()	
		実 績					
達成 状況 説明	・途中退職により、支援員が不足する状況があったが、3学期には必要な支援員の配置が完了し、きめ細かな支援が実践できたことで、成果指標を達成することができた。 ・中学校においては、1対1による丁寧な支援を要する生徒が出たため、目標より1名多く支援員を採用としたことで、きめ細かな支援が可能となり成果指標を達成することができた。						
成果目標 (指標) 及び進捗状況	H30成果目標(指標)		基準値 (年度)	29年度	30年度	1年度	目標値 (年度)
	支援員に対する満足度(80%)を含め、対象となる児童生徒の保護者へのアンケート調査により、本事業のあり方について検証する。	目 標	()	(80%以上)	(80%以上)	()	()
		実 績		93.3%	91.5%		
		目 標	()	()	()	()	()
		実 績					
	進 捗 状 況 説 明	・必要に応じ支援員を増員するなど、きめ細かな支援を行ったことで、保護者の支援員に対する満足度が9割を超えており、成果指標を達成することができた。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	- きめ細かな支援を実践していくためには、継続的に支援員を確保する必要があるが、支援方法の偏りの抑制、支援の質が保てるよう、支援員の情報共有、人材育成に取り組んだことが成果目標を達成できた要因であると考え。 - 支援を必要とする幼児児童生徒が年々増加傾向にある中、個々に応じた適切な対応や継続した支援体制の構築が課題である。	- 引き続き、支援員を対象とした研修会を定期的に開催することで、多様な障がいやこれらの支援方法に関する知識を共有しスキルアップを図る。 - 各校の特別支援教育主任教諭を中心に、学校間の連携を綿密に行える環境の整備を行う。また、保護者へのアンケート調査結果による課題等の共有により、対象幼児児童生徒の現状を把握することにより、充実した支援体制の構築を図る。
今後の取り組み方針		
- 引き続き、支援員を対象とした研修会の開催による支援方法の情報共有と人材育成に取り組む。 - 保育所(園)、幼稚園、小学校及び中学校の学校間や支援員と教員(担任)間の情報共有や意見交換の場を設定し、連携強化を図ることで、切れ目のない支援に取り組む。 - 保護者へのアンケートを実施し、個々の生徒についての情報を共有するとともに、支援員に対する満足度の向上に取り組む。		

資金の流れ														
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>35,951</td><td>34,115</td><td>27,292</td><td>6,823</td><td>1,836</td></tr> </tbody> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	35,951	34,115	27,292	6,823	1,836
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
35,951	34,115	27,292	6,823	1,836										
北中城村 34,115千円 賃金 34,115千円 臨時職員 8名 12,425千円 〔ほか、夏休み等に係る対象外経費:703千円〕 臨時職員 4名 5,943千円 〔ほか、夏休み等に係る対象外経費:310千円〕 臨時職員 6名 9,899千円 〔ほか、夏休み等に係る対象外経費:462千円〕 臨時職員 5名 5,848千円 〔ほか、夏休み等に係る対象外経費:361千円〕 〔特別支援教育支援員(北中城小学校)〕 〔特別支援教育支援員(島袋小学校)〕 〔特別支援教育支援員(北中城中学校)〕 〔特別支援教育支援員(北中城幼稚園)〕														
資金使途の流点、検・費目・評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	- 支援員は、面接を経て経験や業務に対する意欲がある者を採用しており、妥当であると判断する。 - 予算規模については、村規則等に基づき積算しており妥当であったと考える。 - 児童生徒が不在の長期休業期間等は対象外経費としており、費目・使途は事業目的に即したものであると判断する。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	北中城村						
平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	7-②	学習支援員配置事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-2-(2)-エ	
担当部課名	教育総務課	事業実施(予定)年度	平成27～令和3年度		沖縄振興基本方針該当箇所	要保護児童やひとり親家庭等への支援	
						Ⅲ-3	
事業内容	学習の遅れがちな児童生徒に対する支援を行うため、村立小中学校に学習支援員を配置する。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	■直接実施 □委託 □補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況		27年度	28年度	29年度	30年度	1年度
		(a)当初予算額	4,881	4,881	5,406	4,590	
		(b)予算現額	4,236	4,632	4,607	4,326	
		(c)増減額(b-a)	▲645	▲249	▲799	▲264	
		(d)繰越額	—	—	—	—	
		A. 計(b+d)	4,236	4,632	4,607	4,326	
		B. 執行済額	3,717	4,423	4,556	4,326	
		うち交付金充当額	2,973	3,538	3,644	3,460	
		次年度繰越額	0	0	0	0	
		執行率(%) (B/A)	87.7%	95.5%	98.9%	100.0%	
予算の状況の説明	・小学校支援員が当初採用できなかったことに伴い264千円を減額補正を行った。						
活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)		達成状況				
			27年度	28年度	29年度	30年度	
	学習支援員の配置 小学校2校/2名 中学校1校/1名	目標	(小学校:2人 中学校:1人)	(小学校:2人 中学校:1人)	(小学校:2人 中学校:1人)	(小学校:2人 中学校:1人)	
		実績	小学校:2人 中学校:1人	小学校:2人 中学校:1人	小学校:2人 中学校:1人	小学校:2人 中学校:1人	
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	・当初配置予定であった小学校1校の支援員が4ヶ月間採用できなかったものの、9月には採用できたことで、村立小中学校すべてに支援員を配置することができており、活動目標を概ね達成することができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)		基準値(年度)	29年度	30年度	1年度	目標値(年度)
	沖縄県学力到達度調査における平均正答率30%未満の割合の減少 小学5年生:算数(18.5%以下) 中学2年生:数学(37.6%以下)	目標	()	小5算数:3.7%以下 中2数学:2.8%以下	小5算数:18.5%以下 中2数学:37.6%以下		()
		実績		小5算数:9.7% 中2数学:43.8%	小5算数:13.4% 中2数学:29.9%		
	沖縄県学力到達度調査における無答率の減少 小学5年生:算数(6.8%以下) 中学2年生:数学(10.5%以下)	目標	()	小5算数:4.1%以下 中2数学:9.7%以下	小5算数:6.8%以下 中2数学:10.5%以下		()
		実績		小5算数:4.6% 中2数学:15.6%	小5算数:2.6% 中2数学:8%		
	進捗状況説明	・平均正答率30%未満の割合については、小学校及び中学校ともに成果目標を達成しているものの、小学校では前年度より3.7%増加する結果となった。 ・無答率の割合については、小・中学校ともに減少し、成果目標を達成した。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・学習支援を必要とする児童生徒は年々増加傾向にある一方で、支援員と担当教諭による連携したきめ細かい支援体制を構築することで、正答率30%未満及び無答率の目標達成が図られている。 ・小学校の平均正答率30%未満の割合が、前年度より増加していることから、個の能力や性格等に応じた学習支援を行う必要がある。	・学習支援を必要とする児童生徒について、担任、教科担任、特別支援教育主任教諭、特別支援教育支援員等と連携し、個々に応じた支援体制を構築するため、必要に応じて個別指導を行うことで支援体制の充実を図る。 ・担任教諭や教科担当だけでなく、特別支援教育主任教諭や特別支援教育支援員との意見交換や情報共有の機会を多く設けることで、個々の支援状況や、支援後の変容についての把握に努める。
今後の取り組み方針		
・教諭と支援員によるチームティーチングによるきめ細やかな指導・学習支援に努め、必要に応じて個別指導を要する生徒に対し補習指導を行う。 ・担任教諭や教科担当に加え、特別支援教育担当者等も交えた意見交換等を実施する。		

資金の流れ														
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4,747</td><td>4,326</td><td>3,460</td><td>866</td><td>421</td></tr> </tbody> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	4,747	4,326	3,460	866	421
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
4,747	4,326	3,460	866	421										
北中城村 4,326千円 賃金 4,326千円 臨時職員 1名 1,041千円 〔ほか、夏休み等に係る対象外経費:69千円〕 〔学習支援員(北中城小学校)〕 臨時職員 1名 1,617千円 〔ほか、夏休み等に係る対象外経費:189千円〕 〔学習支援員(島袋小学校)〕 臨時職員 1名 1,668千円 〔ほか、夏休み等に係る対象外経費:163千円〕 〔学習支援員(北中城中学校)〕														
資金の 使途の 流れ、 点検、 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・支援員は、教員免許を有している者を面接を経て採用しており、妥当であると判断する。 ・予算規模については、村規則等に則り積算しており、妥当であったと考える。 ・児童生徒が不在の長期休業期間等は対象外経費としており、費目・使途は事業目的に即したものであると判断する。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	北中城村						
平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	7-③	児童生徒の県外派遣旅費等支援事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(4)-イ	
担当部課名	教育総務課	事業実施(予定)年度	平成29～令和3年度		沖縄振興基本方針該当箇所	能力を引き出し、感性を磨く人づくりの推進	
						Ⅲ-3	
事業内容	県外大会への参加を全児童生徒に等しく機会を与え、児童生徒の視野を広げるため、学校教育の一環として派遣されるものに対し派遣費用を補助する。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	□直接実施 □委託 ■補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況		29年度	30年度	1年度	2年度	3年度
		(a)当初予算額	2,537	2,537			
		(b)予算現額	3,177	4,231			
		(c)増減額(b-a)	640	1,694			
		(d)繰越額	—	—			
	A. 計(b+d)	3,177	4,231				
	B. 執行済額	2,853	4,231				
	うち交付金充当額	2,282	3,384				
	次年度繰越額	0	0				
	執行率(%) (B/A)	89.8%	100.0%				
予算の状況の説明	・当初想定していた派遣人数を上回ったため、補助金1,694千円を増額補正した。						
活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)		達成状況				
			29年度	30年度	1年度	2年度	
	県外大会への派遣団体数	目 標	(支援の実施)	(5団体)	()	()	
		実 績	支援の実施	8団体			
		目 標	()	()	()	()	
		実 績					
達成状況説明	・小学校では2団体44人、中学校では6団体102人を県外へ派遣し、成果目標を達成することができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)		基準値(年度)	30年度	1年度	2年度	目標値(年度)
	派遣された児童の視野が広がったか(80%)を含め、保護者に対するアンケート調査により、本事業のあり方について検証する。	目 標	()	(80%以上)	()	()	()
		実 績		88.0%			
		目 標	()	()	()	()	()
		実 績					
	進捗状況説明	・大会派遣後の児童生徒の様子について、88%の保護者が、「視野が広がった」「積極的になった」など意欲が高まっていると回答し、目標を上回った。また、学習意欲についても、89.1%が「向上している」と答えており、県外大会への参加が学習面においてもモチベーションの向上に寄与していることが確認でき、児童生徒にとって効果が高い事業であるとする。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・アンケートの回答が提出期限に間に合わないなど、効果検証に苦慮したことから、本事業の目的等について周知徹底を図る必要がある。	・学校と連携し、本事業の目的や内容について周知を行うことで、アンケートの必要性等について理解促進に取り組む。
今後の取り組み方針		
・引き続き、県外大会に参加したことによる、児童生徒に与えた影響を確認するため、アンケート調査による効果検証に取り組む。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象 事業費</th><th>交付金 充当額</th><th>市町村 負担金</th><th>交付対象 外経費</th></tr> <tr> <td>11,193</td><td>4,231</td><td>3,384</td><td>847</td><td>6,962</td></tr> </table> 北中城村 4,231千円 補助金 4,231千円 小学校 2団体 1,046千円 〔 県外派遣補助金 〕 〔 ほか、村負担分(対象外経費):1,806千円 〕 中学校 6団体 3,185千円 〔 県外派遣補助金 〕 〔 ほか、村負担分(対象外経費):5,156千円 〕					総事業費	交付対象 事業費	交付金 充当額	市町村 負担金	交付対象 外経費	11,193	4,231	3,384	847	6,962
総事業費	交付対象 事業費	交付金 充当額	市町村 負担金	交付対象 外経費										
11,193	4,231	3,384	847	6,962										
資金の 使途の 流れ、 点検、 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
・	○	支出先の選定方法は妥当か。	・補助先への交付決定は、要綱等に則り行っており、妥当であると考え。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	・予算規模は村の規定に基づき適正な規模であった。											
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	・受益者負担額を1/2としており、負担割合は妥当であると考え。											
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	・費目・使途については、実績報告等で確認・精査しており、事業目的に即した必要なものであると判断する。											

市町村名	北中城村						
平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	7-④	小中学生県外派遣支援(社会教育関連)事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(4)-イ	
担当部署名	生涯学習課	事業実施(予定)年度	平成29～令和3年度		沖縄振興基本方針該当箇所	能力を引き出し、感性を磨く人づくりの推進	
						Ⅲ-3	
事業内容	村に在住する子ども達が等しく県外大会に参加する機会を与えることで子ども達の視野を広げるため、村・県を代表して派遣されるスポーツ・文化活動に対して航空運賃を補助する。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	□直接実施 □委託 ■補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			29年度	30年度	1年度	2年度	3年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	494	494			
		(b) 予算現額	886	940			
		(c) 増減額(b-a)	392	446			
		(d) 繰越額	—	—			
		A. 計(b+d)	886	940			
	B. 執行済額		886	940			
	うち交付金充当額		708	751			
	次年度繰越額		0	0			
	執行率(%) (B/A)		100.0%	100.0%			
予算の状況の説明		・当初想定していた派遣人数を上回ったため、補助金446千円を増額補正した。					
活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)		達成状況				
			29年度	30年度	1年度	2年度	
	県外大会への派遣者数	目 標	(支援の実施)	(26名)	()	()	
		実 績	支援の実施	58名			
		目 標	()	()	()	()	
		実 績					
達成状況説明	・本村の派遣基準に基づき、適切な支援を実施し58名の児童生徒を派遣した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)		基準値(年度)	30年度	1年度	2年度	目標値(年度)
	派遣された児童の視野が広がったか(80%)以上を含め、保護者に対するアンケート調査により、本事業のあり方を検証する。	目 標	()	(80%)	()	()	()
		実 績		100%			
		目 標	()	()	()	()	()
		実 績					
	進捗状況説明	・全ての保護者から「視野が広がった」「何事にも積極的になった」等のアンケート回答があり、成果目標を達成することができた。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・派遣制度の周知を行ったことで、成果目標を達成した要因と考えるが、より多くの児童生徒の制度を活用してもらえるよう、各種大会の結果について情報収集に努める必要がある。	・引き続き、学校と連携して、本事業の周知を行うことで、小中学生のスポーツ文化活動に対する支援の充実化を図る。
今後の取り組み方針		
・村広報誌やホームページ等による制度周知を行うとともに、学校との連携を密に行い情報共有を図ることで事業周知に努める。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> <tr> <td>2,170</td><td>940</td><td>751</td><td>189</td><td>1,230</td></tr> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	2,170	940	751	189	1,230
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
2,170	940	751	189	1,230										
北中城村 940千円 補助金 940千円 選手等保護者 27件 940千円 県外派遣補助金 ほか、個人負担分(対象外経費):1,230千円														
資金の流 れ、費 目・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・補助先は、要綱等に則り交付決定を行っており、妥当である と考える。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	・不用額はなく、予算規模は適正である と考える。											
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	・航空賃以外は受益者にて負担しており、負担割合は妥当 である と考える。											
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	・費目・使途については、実績報告等で確認・精査しており、 事業目的に即した必要なものである と判断する。											

市町村名	北中城村						
平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	8-①	健康長寿のまちづくりアクション事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-2-(1)-ア	
担当部課名	企画振興課		事業実施(予定)年度	平成26～令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	沖縄の食や風土に支えられた健康づくりの推進 Ⅲ-4	
事業内容	本村の健康課題にアプローチし村民の運動習慣の啓発に繋げるため、健康イベントを開催する。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	■直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	3,000	2,873	7,446	5,602	4,984
		(b) 予算現額	3,000	2,814	6,814	5,855	5,044
		(c) 増減額(b-a)	0	▲ 59	▲ 632	253	60
		(d) 繰越額	—	—	—	—	—
	A. 計(b+d)		3,000	2,814	6,814	5,855	5,044
	B. 執行済額		2,505	2,680	6,345	4,986	4,058
	うち交付金充当額		2,004	2,144	5,076	3,988	3,246
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		83.5%	95.2%	93.1%	85.2%	80.5%
予算の状況の説明		・城ヨガの参加費を無料にしたことにより、60千円の増額補正した。 ・986千円の不用額は、定例健康イベントで3回実施を予定していた城ヨガが2回となったことによるものである。					
活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)		達成状況				
			30年度	1年度	2年度	3年度	
	定例健康イベント	目 標	(5回)	()	()	()	
		実 績	4回				
		目 標	()	()	()	()	
		実 績					
達成状況説明	・世界遺産中城城跡を主会場とした城(グスク)ヨガは年3回を予定していたが、中城城跡の整備工事等により会場が使用できない時期があったことにより、2回の実施となった。 ・村内各種団体と連携した健康長寿イベント「健活フェスタ」を開催することができた。 ・民間との連携によるイベントとして、タウンウォーキングを実施することができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)		基準値(年度)	28年度	29年度	30年度	目標値(年度)
	各種健康イベントへの総参加者数	目 標	()	(1,000人)	(1,000人)	(507人以上)	()
		実 績		1,616人	1,027人	925人	
		目 標	()	()	()	()	()
		実 績					
	進捗状況説明	・村内各種団体や企業と連携した健康づくりイベントを実施することで、成果目標を達成することができた。 ・参加者の半数近くが村民であることから、村民の運動習慣の啓発に繋がっていると考ええる。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・庁内関係課で構成される北中城村健康サポートチームによる意見交換や健康イベントで連携することで、成果目標の達成、ひいては村民参加者数の増加に繋がったと考えられる。 ・学生、親子、若者、高齢者など、各世代をターゲットとしたそれぞれのイベントを実施することで、より多くの参加者を集めることができた。	・引き続き、関係機関や庁内の連携による村民の健康づくりの機運醸成を図る。 ・企業や地域とのネットワークを維持することで、より多くの村民の運動習慣の定着化を図る。 ・本村の課題である働き盛り世代の健康状況の改善を図るため、当該世代を対象とした事業の検討を行う。
今後の取り組み方針		
・庁内関係課で構成される北中城村健康サポートチームによる、地域の健康課題の共有に取り組む。 ・村民が日常的に体を動かすよう、企業や地域と連携した取り組みを継続する。 ・働き盛り世代が健康に関心を持つきっかけとなる施策の展開について検討する。		

資金の流れ						
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)						
		総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
		4,058	4,058	3,246	812	0

北中城村
4,058千円

報酬
2,363千円

委託料
1,695千円

嘱託員報酬(1名)
2,363千円

〔 嘱託職員報酬 〕

〔 笹尾商工株式会社
500千円 〕
〔 城ヨガ運営業務委託 〕

〔 (一社)北中城村観光協会
823千円 〕
〔 城ヨガ運営業務委託 498千円
健活フェスタ運営業務委託 325千円 〕

〔 株式会社平山印刷
372千円 〕
〔 タウンウォーク運営業務委託 〕

資金の 使途の 流れ、 検 査 目 的	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・委託業務については村契約規則に則り契約を行っており、妥当であったと考える。 ・予算規模は、事前に見積り等を踏まえ積算しており、妥当であったと判断する。 ・費目および使途については、完了時に検査を実施しており、事業目的に即し必要なものであったと判断する。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	北中城村						
平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	9-①	公共施設等エコアクション推進事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(3)-ア	
担当部課名	建設課	事業実施(予定)年度	平成24～令和3年度		沖縄振興基本方針該当箇所	地球温暖化防止対策の推進	
事業内容	省エネルギー設備の導入による積極的なエコアクションを推進するため、既存街灯電球のLED化を実施する。						
効果発現年度	□当年度 ■後年度(1年度)						
実施方法	■直接実施 □委託 □補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			26年度(繰越)	27年度	28年度	29年度	30年度
	予算の状況	(a)当初予算額	-	17,180	18,300	27,507	4,482
		(b)予算現額	-	16,837	16,076	33,038	3,834
		(c)増減額(b-a)	-	▲343	▲2,224	5,531	▲648
		(d)繰越額	27,866	-	-	-	-
		A.計(b+d)	27,866	16,837	16,076	33,038	3,834
	B.執行済額		24,851	16,837	15,660	32,999	3,834
	うち交付金充当額		19,881	13,469	12,528	26,399	3,067
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		89.2%	100.0%	97.4%	99.9%	100.0%
予算の状況の説明		・648千円の予算減額は、入札残によるものである。					
活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)		達成状況				
				29年度	30年度	1年度	2年度
	既存街灯電球をLEDへ切替	目標	(切替実施)	(切替実施)	()	()	
		実績	切替えの実施	切替えの実施			
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	・詳細設計に基づき既存街灯電球の切替えを行ったため、計画通り実施することができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)		基準値(年度)	30年度	1年度	2年度	目標値(R1年度)
	既存街灯のLED照明化	目標	()	(14基)	()	()	()
		実績		14基			
	【R1成果目標】 既存該当14基のLED化によるCO2排出量削減量	目標	()	()	()	()	(5.9t-CO2)
		実績					
	進捗状況説明	・既存街灯電球のLED化については、事業の早期着手に取り組んだことで、計画していた14基全ての切替えを完了することができた。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・既設街灯のLED照明化については、当初の計画以上に進んでおり、今後は導入したことによるCO2低減効果等について、広く周知する必要がある。	・街灯のLED化が与える環境への影響について、広く住民に知らせることで、エコアクションの推進を図る。
今後の取り組み方針		
・村道街灯のLED化によるCO2低減効果等についてホームページ等で効果について周知する。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> <tr> <td>3,834</td><td>3,834</td><td>3,067</td><td>767</td><td>0</td></tr> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	3,834	3,834	3,067	767	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
3,834	3,834	3,067	767	0										
北中城村 3,834千円 工事請負費 3,834千円 (有)南光電気設備 3,834千円 村道街灯LED取替工事(島袋地区)														
資金の流 点、費 目・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・施工業者は指名競争入札を経て契約しており、選定方法は妥当であったと考える。 ・不用額は、事業費の5%以内であり適正であったと考える。 ・費目・使途については、完了時に検査を実施しており、目的に即し必要なものであったと判断した。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	北中城村												
平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】													
事業番号・事業名	10-①		防災体制整備事業				沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第3章-2-(4)-イ				
担当部署名	総務課		事業実施(予定)年度		平成30～令和3年度		沖縄振興基本方針該当箇所		災害に強い県土づくりと防災体制の強化				
								Ⅲ-10-(2)					
事業内容	住民や観光客を想定した備蓄食料、生活物資、防災用品の整備を行う。												
効果発現年度	☐ 当年度 ☒ 後年度(4年度)												
実施方法	☒ 直接実施 ☐ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他 ()												
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況		30年度		1年度		2年度		3年度		4年度		
			(a) 当初予算額		2,064								
			(b) 予算現額		2,024								
			(c) 増減額(b-a)		▲ 40								
			(d) 繰越額		-								
	A. 計(b+d)		2,024										
	B. 執行済額		1,983										
	うち交付金充当額		1,586										
	次年度繰越額		0										
	執行率(%) (B/A)		98.0%										
予算の状況の説明		・41千円の予算減額は、入札残によるものである。											
活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)			達成状況									
				30年度		1年度		2年度		3年度			
	備蓄食料の整備			目 標	(1,900食)		()		()		()		
				実 績	2,000食								
	防災用品の整備			目 標	(整備)		()		()		()		
				実 績	整備								
達成状況説明	・備蓄食料については、アルファーマと備蓄用パンを分ける事で活動目標を以上の備蓄食料を蓄えることができた。 ・防災用品の整備については、災害対策本部要員分の数量の確保ができ、災害時の安全確保、実働的な避難所運営が可能となった。												
成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)			基準値(年度)		30年度		1年度		2年度		目標値(R1年度)	
	H30 備蓄食料の整備率			目 標	()		(25%)		()		()		
				実 績			26%						
	H30 防災用品整備			目 標	()		(防災用品整備完了)		()		()		
				実 績			防災用品整備完了						
	【R4成果目標】 整備した備蓄品等を活用した防災訓練(3回以上/年)の実施			目 標	()		()		()		(3回以上)		
				実 績									
	進捗状況説明	・大規模な災害が発生した際に応急的に必要と考えられる食料や飲料水、毛布等が備蓄できたことで成果目標を達成した。 ・計画通り、防災用品を整備したことで、成果目標を達成することができた。											

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・食物アレルギーやインバウンドに対応した備蓄食料についても整備する必要がある。 ・災害時に避難所等で必要となる非常用発電機や簡易トイレ等整備する必要がある。	・備蓄食料については、アレルギーやハラール対応食についても整備することで、避難者の多様性への対応を図る。 ・非常用発電機や簡易トイレなどの整備により、ライフラインの確保に努める。
今後の取り組み方針		
・インバウンドやアレルギーを持つ避難者を想定し、アレルギー食等の備蓄食料の整備に取り組む。 ・非常用発電機など、避難所で必要なライフラインの整備に取り組む。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1,983</td><td>1,983</td><td>1,586</td><td>397</td><td>0</td></tr> </tbody> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	1,983	1,983	1,586	397	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
1,983	1,983	1,586	397	0										
北中城村 1,983千円 需用費 1,983千円 鈴繁工業沖縄営業所 1,983千円 防災備蓄品購入														
資金の流 点れ、費 目・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・委託事業者は、指名競争入札により選定しており妥当であったと考える。 ・不用額が事業費の5%以内であることから、適正な規模であったと考える。 ・費目や使途については、完了時に検査を実施しており、目的に即し必要であったと判断する。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	北中城村							
平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	10-②	北中城村地域防災計画等策定事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-2-(4)-イ		
担当部署名	総務課	事業実施(予定)年度	平成30年度		沖縄振興基本方針該当箇所	災害に強い県土づくりと防災体制の強化		
事業内容	沖縄県で想定されるあらゆる災害に対応し、地域住民や村を訪れる観光客等を災害から守る体制を構築できるよう、現行の地域防災計画の見直しを行う。また、津波災害警戒区域や土砂災害ハザードマップを加えた防災マップを作成し、危険箇所や避難場所、避難経路などを観光客及び住民へ周知する。							
効果発現年度	☐ 当年度 ☒ 後年度(1年度)							
実施方法	☐ 直接実施 ☒ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他 ()							
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			30年度	1年度	2年度	3年度	4年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	23,275					
		(b) 予算現額	22,775					
		(c) 増減額(b-a)	▲ 500					
		(d) 繰越額	-					
		A. 計(b+d)	22,775					
	B. 執行済額		22,084					
	うち交付金充当額		17,667					
	次年度繰越額		0					
	執行率(%) (B/A)		97.0%					
予算の状況の説明		・500千円の予算減額については、設計価格設定時の見積比較結果によるものである。 ・691千円の不用額については、入札残によるものである。						
活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)		達成状況					
			30年度	1年度	2年度	3年度		
	北中城村地域防災計画の策定	目標	(北中城村地域防災計画の策定)					
		実績	北中城村地域防災計画の策定					
	防災マップの作成	目標	(防災マップの作成)					
		実績	防災マップの作成					
達成状況説明	・沖縄県地域防災計画との整合性を図ることで、あらゆる災害に対応できる実効性のある地域防災計画を策定することができた。 ・防災マップは冊子版のほか、村HPやWeb版で公開し、村民のみならず観光客の利用が可能となった。							
成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)		基準値(年度)	30年度	1年度	2年度	目標値(1年度)	
	地域防災計画の作成完了	目標	()	(作成完了)	()	()	()	
		実績		作成完了				
	避難勧告マニュアルの作成完了	目標	()	(作成完了)	()	()	()	
		実績		作成完了				
	【R1成果目標】策定した地域防災計画を活用した防災訓練の実施	目標	()	()	()	()	(3回以上)	
		実績						
	進捗状況説明	・様々な災害を想定した地域防災計画及び避難勧告マニュアルを策定したことで成果目標を達成することができた。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・国が行う中央防災会議や、全国で発生する大規模災害に関する経験と対策等、最新の情報を計画に反映させるため、防災計画については適宜見直しが必要になる。 ・策定した計画やマニュアルに沿った対応が実践できるよう、訓練や周知等に取り組む必要がある。	・地域防災計画については、全国の大規模災害事例に対応できる計画であるとともに、訓練などを通して地域の実情に即したものとし、より実践的かつ具体的な防災計画となるよう必要に応じて適宜見直しを行う。 ・様々な媒体を通してマニュアル等の周知を広く行うことで、危機管理に対する意識の高揚を図る。
今後の取り組み方針		
・今回策定した地域防災計画やマニュアルに基づき、実践的な訓練に取り組む。 ・防災計画、防災マップを村HP上で公開し、観光客や住民等への周知を行う。		

資金の流れ														
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>22,084</td><td>22,084</td><td>17,667</td><td>4,417</td><td>0</td></tr> </tbody> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	22,084	22,084	17,667	4,417	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
22,084	22,084	17,667	4,417	0										
北中城村 22,084千円 需用費 3,132千円 株式会社 ゼンリンインターマップ 3,132千円 防災マップ作成 委託料 18,952千円 琉球国際航業株式会社 18,952千円 地域防災計画作成														
資金の流 点、検 評価 ・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・委託事業者は、指名競争入札やプロポーザルにより選定しており妥当であったと考える。 ・不用額が事業費の5%以内であることから、適正な規模であったと考える。 ・費目や使途については、完了時に検査を実施しており、目的に即し必要であったと判断する。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												